荒川理事長，訪独スポーツ少年団々長に

日本スポーツ少年団は、5月13日の都道府県本部長会議（東京）で、今夏の日本・西ドイツスポーツユーゲント交流日本少年団派遣団長に、日本体協理事・日本ハンドボール協会理事長の荒川清美氏（日体大教授53才）を選任した。

この交流は今年から毎年行われるもので日本のスポーツ少年団員156人（15才から20才）西ドイツの164人が一ケ月間、たがいの国を訪れ、各地でスポーツ少年団と競技などを通じて、親善を深めあう。荒川団長ら日本側の出発は7月18日の予定である。

荒川氏は、昨春、日本体協理事に選出されたあと、日本スポーツ少年団担当として活躍をつづけていた。

ハンドボール人が、日本体協関係の海外派遣事業で団長をつとめるのはもちろんのこと、役員に選ばれるのも初めて。日本ハンドボール界では、荒川氏のこれまでの活動と今回の選任を高く評価するとともに、今後の活躍に大きな期待をかけている。

北朝鮮IHFへ加盟申請

日本協会は、5月18日の月例常務理事会（東京）で、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）から、IHF（国際ハンドボール連盟）へ加盟意思がある旨の文書が届いたことを明きらかにした。

▽

北朝鮮がハンドボールを行い、しかも国際舞台への進出に積極的な意思をもっていることは、4～5年前から日本協会関係者も耳にしており、ミュンヘンオリンピック（47年9月）には、視察員を送っていた、とも伝えられた。

しかし、その実態についてははっきり判らず、日本体協の北朝鮮との接触でも「ハンドボール」はほとんど話題となっていなかったようだ。

韓国協会の某役員も「まだ準備中の段階」とみていたし、最近では、日本協会筋も、その名乗りあげは早くてもモントリオール・オリンピック時（昭51）になるだろう、とのみかたが強かった。

ところが、5月7日付ピョンヤン発同国ハンドボール協会の名で日本協会へ送られてきた文書によると、すでにIHFに対して加盟申請の書類を送り、今秋10月の年次総会へも出席（オブザーバー）できるよう要望中なことが明きらかとなった。同文書では、加盟に際して日本協会の積極的なあと押しも望んでいる。

消息筋は、今回の申請は同国の実力が国際的なレベルに達した裏付けで、ハンドボール競技のオリンピック定着も一つのキッカケになったとみている。

日本協会では、ちょうど6月14日に保坂周助副会長が日本体育代表団の一員として日本体協国体委員長の資格で北朝鮮を訪れるため同副会長に同国ハンドボール界の実情などを見聞してもらうこととした。また、IHFも同国に対し現状資料の提出を求めたもようである。

荒川理事長の話　スポーツがさかんで、特に球技の強い国だけに登場してくるとなれば、相当の水準にあるとみなければなるまい。

アジアでハンドボールを行う国が増えることは心強いし、日本体協も北朝鮮とのスポーツ交流を促進している時でもあり、日本協会もできるだけの援助をしたい。

しかし、現状がまったく判らず具体的な交流などについては、今のところまったく白紙である。

8月31日に第1戦
東独招待

日本協会では、日体協交流事業として行われる今秋の東ドイツ招待（男、世界選手権2位）について準備を進めているが、5月の月例常務理事会で、その日程を協議次のように内定した。

来日は8月29日または30日。翌日に第1戦、9月1日に第2戦をいずれも東京体育館で行い、第3戦は4日愛知県体育館、第4戦は7日大阪市中央体育館で行う。

このほか、関西地区で1試合が行われる予定である。

第1戦は、第21回NHK杯として開かれることも確定した。

日本側チームについては、本誌既報のとおり、すべて全日本とする意向だが、第3戦（名古屋）だけは、48年度全日本チャンピオン"4冠王"の大同製鋼（愛知）が単独で挑むことになりそうだ。

全日本の陣容は、6月中に選こうされる49年ナショナルチームが当てられることは確定的、次号には発表できよう。

東ドイツは役員、選手、ドクターなど一行20名で、今春の世界選手権で準優勝したガンショフ、ラッケンマッハ、ロストらベストメンバーが来日するものとみられる。

なお、来年は日本側が東ドイツに遠征、交流する（詳細未定）

「ハンドボール」49年6月号（第120号）目次

【表紙写真】関東学生春季リーグ、中央(攻)―日体の迫力にみちた攻防。（5月18日・駒沢体育館）【撮影・山田真市】

選手は14名以内

モントリオール五輪

MOOC（モントリオールオリンピック組織委員会）は、このほど、モントリオール・オリンピックの各競技参加人員などを明らかにしたが、それによるとハンドボールは男女とも一ケ国の編成が役員2名以内、選手14名以内の計16名と改められた。

ミュンヘン・オリンピックの時は、男子のみで一ケ国役員2名以内、選手16名以内とされていたものだがオリンピックの規模縮小の線にそって減員されたもの。ホッケー、サッカーなど各競技もカットをうけている。正式決定は10月の第75次IOC総会。

〔編集部注〕モントリオール・オリンピックのエントリー（役員、選手数）が明きらかとなったが、これはあくまで開催都市が定めた最大数であり、各国の事情によって、この数字を下廻ることがある。

ミュンヘンの時、JOC（日本オリンピック委員会）が、ハンドボールに配分したのは役員1、選手11の計12名で、各国より合計数で6名（役員1、選手5）も少かった。

さらに、オリンピックへ参加申しこみできるのは、その国のNOC（オリンピック委員会）だけである。最悪の場合、予選などに勝って出場資格を得たとしても、NOC（JOC）が認めなければ、オリンピックへ出場することはできない。

五輪の日程

MOOCは、モントリオール・オリンピックのハンドボール競技の日程を次のように内定している。

男子は参加12ケ国を6ケ国ずつ2組に分け予選リーグ、そのあと各組同位者で1～12位までを決める。女子は参加6ケ国のリーグ戦。

〔日程〕男子＝昭和51年7月18、20、22、24、26日以上予選リーグ27日順位決定戦、28日決勝。女子＝20、22、24、26、28日決勝リーグ

相次ぐ世界選手権

新たにユースも

IHF（国際ハンドボール連盟）は、このほど、向こう4年間の世界選手権の日程を決め、発表した。

それによると、女子が、これまでの2年おき開催を改め、来年の第6回大会の次は3年後に開かれることになった。消息筋は、これを機に、男子同よう4年に1度（つまり第8回は一九八二年）に変わる、とみている。

男子は、予定どおり、2年後のモントリオール・オリンピックをはさんで、一九七八年（昭52）に第9回大会が開かれる。

注目されるのは、これまで何回かうわさにのぼったユース大会の実施が本決りしたことだ。

詳細は未定だが、参加資格は20才以下または18才以下とされるようで、日本協会は高体連、学連、実連などと近く話合う予定である。

また、来年の世界学生（男）も初めてカレンダーに組みこまれている。IHFはこれまでこの大会は、FISU（国際学生スポーツ連合）事業のため無関係と云っていたもので、今回の措置は、IHFがこの大会へ、なんらかの動きを示すことになったものではないか、とのみかたがある。

女子、五輪ともアジア予選か

IHFは、前掲の世界選手権日程と同時に、各大会の大陸別予選についてもふれ、そのスケジュールを示した。

それによると、来年の第6回世界女子選手権は、今秋9月1日が申しこみ締切りで、大陸予選は、今年12月2日から来年3月16日までの間に行うこととされ、またモントリオール・オリンピック（男）の大陸予選は、来年11月3日から一九七六（昭51）年3月7日までの間と定められた。

日本協会は、両大会ともアジア予選（代表は1ケ国）はさけられないとみており、その場合、両予選を日本へ誘致するかどうか、早急に検討することとなった。

今のところ、女子は日本以外に多くても2ケ国ていどのエントリーとみられているが、男子は、ミュンヘン時の日、韓、イスラエルのほか台湾、インド（現在は準加盟国）、レバノン、クウェートなども予想されイラクや別掲のように北朝鮮の動向も無視できなくなった。

予選参加が3ケ国以上になった場合、一堂集結の予選会となるか単独カードを組んで勝ち抜きしていくかは不明である。

世界選手権日程

▽第6回学生（男子のみ）
1975（昭50）年1月4日～12日・ルーマニア
▽第6回女子
1975年12月3日～14日・ソビエト（キエフ市）
▽第21回オリンピック
1976年7月　男・18日～28日・モントリオール
　　　　　　女・20日～28日　（カナダ）
▽第1回ユース（男・女）
1977年3月又は4月・場所未定
▽第9回男子
1978年3月・場所未定
▽第7回女子
1978年11月又は12月・場所未定

義務教育指導志望を優先

教育系大学研修会

日本協会は、本誌既報のとおり今夏8月29日から9月1日までの4日間、文部省後援による「全国教員養成大学ハンドボール研修会」(男子のみ)を東京・青少年総合センターで開くことになり、このほど別掲のような運営(実行)委員会を発足させるとともに、その実施要項を発表した。

それによると、参加者は、今年度は全国の教員養成大学(学部を含む)に在籍した者で160名とし将来義務教育機関で教べんをとる者を優先する。

原則として、技術研修(実技)を円滑に運ぶため、チーム編成できることを条件にしているが、その中に教官、OB各1名を含めてもさしつかえないとした点や、受講を希望しながら、在籍する学校にハンドボールチーム(部)がない場合は、推せんさえあれば、個人でも参加できるとした点などに苦心のあとがうかがわれる。

研修日程は別表のとおりで。8月31日は東京体育館での全日本×東独戦を見学することを検討中である。

【全国教員養成大学ハンドボール研修会運営委員会】委員長　荒川清美(日本協会理事長)▽副委員長　的場益雄(全日本教職員連盟副会長)▽委員　宮本酉嗣、片瀬喜代次、遠藤健次、安藤純光、渡辺慶寿、山田哲夫、髙橋健夫、髙田比呂美。

昭和49年度全国教員養成大学ハンドボール研修会開催要項

一、目的　全国の教員養成大学の学生を対象に、ハンドボールの正しい理論と実践を通して、楽しいハンドボールを十分体験させるために合宿研修を行い、当面の学園生活を豊かにするとともに、有為な指導者に必要な資質の向上をはかることを目的とする。

二、主催　日本ハンドボール協会

三、後援　文部省

四、会場　東京・オリンピック記念青少年総合センター

五、期日　昭和49年8月29日～9月1日(3泊4日)

六、研修日程　～別掲～

七、講師　斯界の権威者を充当

八、参加人員と資格　①全国の教員養成大学(学部を含む)の男子学生で、チーム編成(7名以上10名以下)で参加できる者。ただし、そのチーム編成に教官、OB各1名あて含めてもさしつかえない。

②当該大学でチーム編成ができない場合は、当該大学の教職員または、当該県ハンドボール協会で推せんした者1名。

九、経費など　①参加料　一人三千五百円(テキスト代を含む)

②研修期間中の宿泊費(29日昼食から1日朝食までの正味3泊3日分、食事とも)は日本ハンドボール協会が負担する。

③参加旅費は下記のとおり日本ハンドボール協会が一部負担する。当該大学―東京間の普通乗車賃片道分(予定)。

十、申しこみ　①所定の申しこみ書に参加負担金一人三五〇〇円あてを添え、6月30日まで必着で日本ハンドボール協会(東京都渋谷区神南1の1の1　電03―467―七〇九七)あて申しこむ

6月10日までに仮申込すること

②参加人員に制限(総数・約160名)があるので、受付期間中でも締切る場合がある。

③参加チーム(または参加者)には「参加承認証」を交付する。

〈研修日程〉

月日	午前(8時～正午)	午後(13時～17時)	夜間
8月29日	10時から…講議(スポーツ理論など)	基本練習(A)、(B)	座談と映画
〃30日	講議(技術史)、審判技術、技術研修(Ⅰ)	技術研修(Ⅱ)、(Ⅲ)	座談と映画
〃31日	講議(攻撃技術、防禦技術)、技術研修(Ⅳ)	技術研修(Ⅴ)、(Ⅵ)	座談と映画
9月1日	講議(球界展望)、反省会、終了式	(11時解散)	

今年も男女各10校で

全国中学生大会(奈良)

日本協会は、第3回全国中学生大会を、今夏8月18、19日(17日集合)奈良市で行うよう準備を進めていたが、このほど主管の奈良協会から実施要項が発表された。

それによると、参加校はこれまでどおり、男女とも全国9ブロックからの代表1校と開催県代表。

申しこみの締切日は7月18日、(申しこみ先・奈良県天理市櫟本町県立添上高校気付、中畑明郎氏)

会場は第1日(18日)が、天理市の県立添上高球技場、第2日(19日)が奈良市中央体育館で、第1日雨天の場合は、奈良市中央体育館と正強高体育館に移される予定

役員、選手の宿泊料(天理市内に宿泊)は、千五百円程度で、このうち千円を日本協会が補助する

―日本体協― スポーツ・トレーナー

―講習会、研修会日程―

日本体協による「スポーツトレーナー」は各競技団体や地方団体の推せん者によって多くの資格者を出しているが、49年度の講習会研修会の日程が決まった。日本ハンドボール協会普及指導部では、ハンドボール界の資格者が積極的に参加するよう望んでいる。なお今年度から参加者に対する旅費などの補助(支給)はない。

【1級】▽中央講習会　8月25日～31日(体協)＝2級取得後1年後経過の者▽中央研修会　12月1日～3日(体協)

【2級】▽中央講習会　50年3月2日～9日(体協)▽中央研修会　11月28～30日(体協)▽中地区ブロック講習会　6月12日～18日(南紀青少年スポーツセンター)▽東地区ブロック講習会　6月30日～7月6日(田沢湖青少年スポーツセンター)　注＝西地区は終了

〈おねがい〉日本ハンドボール協会の推せんを受けて、これまで1級もしくは2級の資格取得者で前掲の中央講習会、同研修会に出講を希望するかたは、早目に日本協会普及指導部あて文書でお申しこみ下さい。また、50年3月2日からの2級中央講習会に日本協会の推せんを得て新たに資格を受けようとするかたもお申し出下さい。

「高専大会」本決り
8月下旬 柏崎市で

日本協会は、このほど第1回全国高専大会（仮称）を、今夏8月末新潟協会の主管により新潟県柏崎市で開くことを確定した。

同大会は、高専ハンドボール界の実態が不明確な点や、全国高専体協が後援に難色（＝本誌前号既報）を示した点から、日本協会も慎重な態度を採っていたが、むしろ、大会を開くことによって高専界の組織化ができるという荒川理事長の判断で、実施へ踏み切ったもの。

会場地には、これまでこの事業の実現に意欲的にとりくんでいた渡辺五郎兵衛理事が理事長をつとめる新潟協会を候補とし、折衝の結果、柏崎市に決まった。

新潟協会では、近く準備委員会を発足させるが、会期は8月27、28日ごろの2日間になりそうだ。

参加チームについては、当分の間、地域予選などを行わず、直接参加とする予定。（大会要項は6月初旬発送）

柏崎市は38年8月に第15回全日本総合、39年6月に第19回国体を開き成功させている。

なお、5月の月例常務理事会席上、来年度の開催地として愛知県下（豊田工専）で準備中なことが明きらかにされた。

6月26日から自衛隊選手権

全日本自衛隊連は、第6回全日本自衛隊選手権を6月26日から30日までの5日間にわたって開くと発表した。

会場は6月26、27日が東京・駒沢第一球技場、28日からは東京練馬の自衛隊体育学校が予定されている。例年どおり、女子の部（オープン）も行われる。

中川理事が辞任

日本協会の会計担当常務理事・中川種弥氏（早大出）は転勤のため、このほど辞表を提出、受理された。後任は6月中に決まる。これで理事の現在数は30名（定数33名以内）

日本実業団リーグ（男子）幕あける

ヨーロッパなみの全国リーグ発足へ引き金になるか、と注目されている日本実業団リーグ（第15回全日本実業団男子選手権）が5月25日名古屋市体育館で幕をあけた。

6強の各地転戦による選手権は斯界でも初めての試み。参加した大同製鋼（愛知）、本田技研鈴鹿（三重）、大崎電気（埼玉）、湧永薬品（大阪）、三景（東京）、三菱レイヨン大竹（広島）各チームはいずれも全日本級選手を主軸に、高校・学生界から有力新人を加えて自信満々の布陣。三景×本田技研鈴鹿の開幕第一戦から早くも熱気につつまれた試合がくりひろげられている。

優勝争いのヤマとみられる大同製鋼×湧永薬品戦（6月8日、大阪）は、毎日放送（MBS）をキー局に同日午後2時からテレビ中継の予定。

なお、全日本実連は、本誌既報の日程を手なおしした

今月のスケジュール

- 1日(土)・大阪市中央体育館＝16時30分
  - 本田技研×三菱レイヨン大竹
  - 大崎電気×湧永薬品
- 8日(土)・大阪市中央体育館＝14時
  - 大同製鋼×湧永薬品
  - 三菱レイヨン大竹×大崎電気
- 9日(日)・岐阜県民体育館＝14時
  - 三景×大同製鋼
- ・四日市中央緑地体育館＝15時
  - 本田技研×大崎電気
- ・岩国市体育館＝15時
  - 湧永薬品×三菱レイヨン大竹
- 15日(土)・横浜平沼記念体育館（時間未定）
  - 湧永薬品×本田技研
  - 大崎電気×三景
- 16日(日)（最終日）・横浜平沼記念体育館（時間未定）
  - 三景×湧永薬品
  - 大同製鋼×大崎電気

日本実業団リーグ第1週速報

◇第1週第1日（5月25日・名古屋市体育館）

三景（東京）13（8—5、5—2）7 本田技研鈴鹿（三重）

大同製鋼（愛知）28（16—6、12—4）10 三菱レイヨン大竹（広島）

◇第1週第2日（5月26日・名古屋市体育館）

大同製鋼 16（11—3、5—5）8 本田技研鈴鹿

三景 23（11—7、12—7）14 三菱レイヨン大竹

日本実業団リーグ（男子）
～第1週現在～

	同	本	崎	湧	三	菱	P	勝	分	負	得	失
大同製鋼	×	○	…	…	…	○	4	2	0	0	44	18
本田技研	●	×	…	…	●	…	0	0	0	2	15	29
大崎電気	…	…	×	…	…	…	0	0	0	0	0	0
湧永薬品	…	…	…	×	…	…	0	0	0	0	0	0
三景	…	○	…	…	×	○	4	2	0	0	36	21
三菱レ	●	…	…	…	●	×	0	0	0	2	24	51

Pはポイント　勝＝2点　分＝1点　負＝0点

……は第2週以降対戦を示す

世界選手権リポート

新たなる斗志をいだきて

北川勇喜
（世界選手権監督）

世界選手権で見たルーマニアのナショナリズムについて

　第八回世界選手権大会決勝戦を観戦中、終始、東独に優勝してもらいたいと祈るような眼差しで見ひそかな声援を送り続けていた私の心に、ルーマニア優勝のホイッスルの音色は、あまりにも冷たく響いた。何故ならば、昨年のユーゴの来日に引き続き世界選手権優勝チームの看板をかかげた東独チームを迎えユーゴと異質のより速く、より正確に、より考えたハンドボールの真髄を日本の皆様がたに見せたいと願っていたからである。しかし落胆したのもつかの間、コート上で起こっているある光景を見て、失望から感激に変った。それは魔術師といわれているルーマニアのガッツ主将が、国旗を高々と掲げ、その後に勝利者達が一緒に躍るようにして場内を回り始めたのだ。国旗と彼等との調和、喜こびに満ち誇らしげな顔と顔、なんと美しかったことか。今も私の脳裡に焼きついて離れない。思えば我々は、日の丸を胸に「君ケ代」を聞き、よし!!日本の為に頑張ろうと誓い、勝利に執念を燃やしながら戦っても、日の丸は、晴れの場に出ることはなかったのである。

　同じ人間がせり合い、戦いながらどうして勝てないのだろう。この口惜しさが、小さな胸に大きくたまってどうすることも出来なかった。

　だがしかし、今は、いつかは、きっと〝この旗を見よ〟……この思いが日増に強くなり闘志に燃えている。

日本チームの戦いの跡について

　表1の右欄をまずみていただろう。各国の身長・体重をみるとやはり過去の世界選手権及びミュンヘンオリンピック同様、今回も体格が勝敗に大きく影響を及ぼしていることがわかる。

　次にキャリアである。優勝国のルーマニアの公式国際試合数に目を向けていただきたい。今回を入れて、世界選手権八回の内半分の四回優勝し、文字通り世界の最強国と云える。このチームの各選手の国際経験が他国よりも数段勝っているのも注目される。公式国際試合数五十試合以上が五人、百試合以上が五人と計十人、チームの平均が七十二・七試合と圧倒的な数字である。日本をみると、五十試合以上は一人もいない。百試合以上は勿論皆無である。日本が誇るミスター・ハンドボール・木野（湧永薬品）がこの大会中（スウェーデン戦）やっと50試合に到達したのみである。全く日本からすればルーマニアは雲の上の数字である。体格も一九〇センチ以上が五名、しかも体重の平均が八十七kgと大きく重くこの面でも、ルーマニアは世界ナンバーワンと云える。

〔表1〕

順位	国名	シュート成功率	相手シュート阻止率	平均身長(cm)	平均体重(kg)	190cm以上の選手
①	ルーマニア	0.53	0.62	187.3	87.7	5名
②	東ドイツ	0.57	0.60	184.9	85.6	4
③	ユーゴ	0.50	0.58	186.4	87.9	4
④	ポーランド	0.46	①0.65	184.1	81.9	4
⑤	ソ連	①0.60	0.56	186.6	87.3	3
⑥	チェコ	0.51	0.57	184.3	84.9	3
⑦	ハンガリー	0.53	0.62	187.4	82.9	6
⑧	デンマーク	0.36	0.51	185.8	82.7	4
⑨	西ドイツ	0.50	0.57	187.3	83.4	6
⑩	スウェーデン	0.46	0.50	183.7	81.9	2
⑪	ブルガリア	0.45	0.52	180.6	79.6	1
⑫	日本	⑧0.47	⑫0.43	179.3	75.2	1
	アルジェリア	0.25	0.46	177.6	69.8	0
	アイスランド	0.45	0.38	185.9	82.9	5
	スペイン	0.32	0.52	178.9	79.1	0
	アメリカ	0.34	0.31	186.7	82.8	5

・シュート成功率と成績順位との相関係数　0.77
・相手シュート阻止率と成績順位との相関係数　0.83

　次掲の表は上位12ケ国の公式国際試合数を示したもので、数字は本大会前までの記録である。したがって、今回フル出場した選手は6試合がプラスされ50試合、100試合ラインへ新たに到達した選手もかなり居る。

　最高はシモ（ハンガリー、10才）の172試合＝今回さらに6プラス＝

公式国際試合数	参加選手数	50～99試合	100試合以上	平均
ルーマニア	16人	5人	5人	72.7試合
東ドイツ	16	5	2	54.1
ユーゴ	16	6	3	68.3
ポーランド	16	8	0	45.7
ソ連	16	4	1	40.2
チェコ	16	6	2	54.9
ハンガリー	15	2	4	57.6
デンマーク	16	2	2	36.7
西ドイツ	16	6	1	47.4
スウェーデン	16	4	0	36.6
ブルガリア	15	3	0	30.9
日本	13	0	0	13.4

　表1（左欄）は、シュート成功率と防禦率である。欄外を見れば成績順位と相関係数が〇・七七、防禦率と成績順位との相関係数は〇・八三と高い。即ち両方共勝敗と非常に深い関係にある。

　先ず、ミュンヘンオリンピックに於いて比較してみると、成績上位国のほとんどが、シュート成功率に於いて、今回は上回っているこの点と、実際対戦しあるいは、ゲームを見た感じからすれば、世

界のハンドボールの流れは、防禦型から攻撃型へと移りつつあることが明確である。

日本は、ミュンヘン（○・三五五）に比べ、今回は○・四七であり、シュート成功率から見るとミュンヘンより高く、丁度八位にあたる。しかし防禦率が○・四三で低く十二位となる。これは、あくまで数字の上でのひねり方だがミュンヘン時の防禦力と今回の攻撃力をプラスすれば、モントリオールでは、ベスト8入りすることは可能であると云う線が出てくる訳である。

つぎに、個人別得点ベストテンであるが、既に機関誌一一八号で御存知のことと思うが、この中に第二位の佐藤、五位の藤中が名を連ねさらにベスト20に広げた場合十七位に中井（19点）と世界選手権大会の上位国である東独、ユーゴ同様、三人もの選手が入ったことは特筆されるし、これが、モントリオールへの明るい材料でもある。この実績から考えてみると確率の問題を残しているが、三人の攻撃力は世界的なレベルにあると云ってよい。

〔表2〕 日本チームの対戦別内容分析

対戦国		東ドイツ		ソ連		アメリカ		ブルガリア		西ドイツ		スウェーデン	
		日	ド	日	ソ	日	ア	日	ブ	日	ド	日	ス
試合結果（スコア）		16	㉛	18	㉕	㉙	18	22	㉓	24	㉚	21	㉘
日本の攻撃回数		49		46		50		53		62		48	
攻撃成功率		0.33	0.63	0.39	0.54	0.58	0.37	0.42	0.43	0.39	0.48	0.44	0.57
シュート成功率		0.42	0.67	0.50	0.66	0.69	0.56	0.54	0.58	0.47	0.59	0.63	0.70
ミスによる攻撃失敗数		11	3	10	8	8	18	12	13	11	11	8	9
ミスによる攻撃失敗率		0.23	0.06	0.22	0.17	0.16	0.36	0.23	0.25	0.18	0.18	0.17	0.18
得点内容	サイド	4	5	2	6	4	0	0	6	2	3	2	4
	ポスト	0	7	3	3	4	1	0	3	4	4	2	6
	中央	10	10	7	5	8	6	11	6	9	11	10	11
	FTフォーメーション	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0
	リバウンド	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	速攻	2	5	4	7	6	3	7	3	4	7	4	6
	7MT	0	4	2	4	7	6	4	5	4	3	3	1

個人得点10傑

①ビルトラン（ル）	43（3）点	194cm	98kg
②佐藤（日）	41（5）	180	80
③アラドスチョフ（ブ）	31（13）	169	70
③マキシモフ（ソ）	31（20）	186	96
⑤藤中（日）	20（2）	180	74
⑥ガンショフ（東）	25（2）	183	91
⑥カーレルト（東）	25（10）	200	98
⑧ベステベ（西）	24（4）	184	90
⑧クレムペル（ポ）	24（9）	192	87
⑩アンデルソン（スウ）	23（7）	196	94
⑩ヤリイ（チェ）	23（0）	190	86
⑩ラッケンマッハ（東）	23（0）	182	90

ル＝ルーマニア　ブ＝ブルガリア　東＝東ドイツ
西＝西ドイツ　ポ＝ポーランド　スウ＝スウェーデン

第2表は、日本が対戦したゲームの分析である。大接戦を演じたブルガリア戦では、種々数字も似通っているが、東独、ソ連、西独スウェーデン共、いずれも、大なり小なり数字が下回っている。特にその中で東独、ソ連では、まずミスが多かったことと更に、ポストプレイ、サイド攻撃と、日本のディフェンスのネックを巧みにつかれて失点を重ねた、格言に〝ミスなきところに勝利あり〟と云われているが、シュートミスならとも角、それ以前にパスキャッチミスで相手にボールをやるのは、ナショナルプレイヤーとしては失格であるが残念ながら今回はそれが多かった。ハンドボールは、パスで操作するゲームであるだけに基本技術の重要性を再度確認させられた思いである。そしてゲーム中にその様なミスは絶対に出さない様にしなければならないし又、弱いディフェンスから、よい速攻が出るはずもない。

〝よい守りから、よい攻めへ〟これがモントリオール迄のより大きな課題である。

以上は、統計上からみた日本チームの戦いぶりであったが、次に主観的に述べてみたい。

ハンドボールは、ハビットゲーム（習慣ゲーム）であるということを、いくら頭でわかっていても実戦に於いてはそれがすぐプレイとして発揮出来ない、ゲームに必要な予想能力、激しいプレイはいつもゲームをしている相手選手やチームとのせり合いで向上するものである。具体的な例として、日本の藤中（大同製鋼）が国内では二ゲーム戦っても疲れないのが、この大会では一ゲームでバテてし

まったと云っている。勿論激しい攻撃に対応してスタミナを消耗したのであるが、それと同時に馴れないチームや選手の攻防の意図を適確に読めない為に起る心理的スタミナの消耗が大きいのである。この様に、世界の強豪チームとの対戦は、不馴れの為から生じる精神的負担は想像以上に大きい。この様な荷重負担の中で若手の選手は良く戦ったと感じている。中でも日本選手中最年少であった蒲生（中大）は、よく頑張ったものの長身だけでは世界に通用しないことも一番勉強したに違いない。

又、この大会中ポスチャーとして大きく成長した菊地（早大）もまだまだ一流には遠い道のりであると感じたと思う。シュートにおいて芸術的センスを持つ柳川弟（大同製鋼）もシュート迄の道程が大変であるということがわかったに違いない。この様に、若い選手の無限大の可能性を信じれば、目先だけでなく将来を見通しての今回の遠征の収獲は非常に大きかったと考え信じている。



日本の攻撃力はA級，課題はいぜんディフェンスだ（シューター藤中，対ブルガリア，光島磯雄氏提供）

新しい技術及びプレーについて

先ず第一に、防禦はどのチームも強いが、とり分けても東欧チームは、確に激しく強い。そして〝勝利はディフェンスにあり〟これを実証したのが四位のポーランドである。先程の数字の上では、攻撃力に於いて日本より劣っていたが、逆に防禦率は第一位である。チェックの早さ、スイッチのスムーズな転換、次の攻撃の拗どころを狙うビジョンマークのローテーション等実に見事でしかもプレイに対する予想能力にすぐれて、即行動する点、学ぶべきところが多かったと共に、ルーマニアが決勝戦で五分退場者を二回も出しながら六人で守り抜いたディフェンス力と共に特に印象に残った。

攻撃面では、戦法として私がやろうとしている速いコンビネーションプレー、セットフォーメーションは皆無であった、従来通り三対三のセフトシステムからポストを中心とした波状攻撃が主体であるがパスのタイミング、ブロックの仕方、走り込み方等、ポスト、サイドとプレイの組立方が実にうまく、個人技を生かして威力を発揮していた。

現時点では日本チームと同じような攻めではあるが、日本の選手と違うところは、瞬間のパワフルなプレイの違いであると感じた。又ミュンヘンより一段とうまくなっていたのがサイドシューターである。特に右サイドから左利きのプレーヤーの成長は著しい。おそらく、ミュンヘンで彼等の目をみはらせたノダシュートからのヒントで開発したものであろう。角度のない0地点から、ダイビングで角度をつけ、GKのワークスペーシング外のコースをつくシュートには、名手本田(大阪イーグルス)も手が出なかった。

雲を破って太陽へ

今回の世界選手権から考えてみると、個々の体力と立地条件からくる国際試合経験の劣る日本チームが、ヨーロッパ勢に勝つ為には尋常な手段では絶対に勝利を得ることは出来ないと感じた。なぜならば、彼等は既にミュンヘンからモントリオールそしてモスクワ（へ未定だが）へと続くオリンピックの為の社会主義諸国の徹底した選手づくりの環境があるからだ。勝つことによって得られる名誉、地位・金。この魅力は大きいし、それを徹底的にやれることが彼等には出来る。アマチュアリズムで拘束されている日本とは大違い、しかも体力や技術の上で優っている彼等が日本より恵まれた環境でハンドボールに打ち込むのだから、勝敗は明白の理である。

それでは、いかにすれば勝てるか、どうすれば日の丸を掲げることが出来るのか、私なりにこの課題に対し、自分なりの強化対策の骨子を述べてみたい。

一、長期展望に立って、基礎工事からやり直す。目標は、モントリオールオリンピックに八位以内、第九回世界選手権七位以内、第二十二回オリンピック(モスクワ?)六位以内、第十回世界選手権五位以内、そして第二十三回オリンピックにメダル……。

二、一人のリーダーを中心とし、各専門分野に於いて、特殊才能を持つ者で構成し、勝つチーム像に対して、一貫性のある指導体制を確立する。

三、目標達成迄、プロジェクトチームを崩さない。

四、チームの大型化を目差す。

（一九〇センチ以上三人、一八五センチ以上五人、一八一以上五人一八〇以下三人）

五、日本民族の精神的、身体的特性を十分生かした独自の戦法開発

㋑速攻防コンビネーションハンドボール

㋺セフトフォーメーションハンドボール

㋩オールコートディフェンス

六、この戦法を生かす選手づくりの為の質量豊富な独特の肉体的、精神的トレーニング及び練習法を編み出す。

七、運命共同体の意識を持つ。家族にする為に国内外の合宿及び国際試合を数多くする。

小さな支流が集って山を下り、谷をめぐり野を走り洋々たる大河となって海へ注ぐように我がハンドボールも小異を捨て大同団結の実をあげ、我々の子孫の為に大きな夢を持とうではないか――。

これはハンドボール狂人・光島磯雄氏の前号の反省と将来への提言の末節の部分である。ハンドボールマンにとって深く感じる言葉である。（了）

注目される車―金 成憲 コンビ

成均館、梨花女大(韓国)が来日

全日本学連は、韓国から男成均館大、女・梨花女大を招いて、恒例の日韓学生交流(男子第8回、女子第3回)を行うと発表した。

両大学とも2度目の来日で6月2日福岡での第1戦を皮切りに9日まで各5試合が行われる予定である。

韓国、いぜん学生が主流

韓国ハンドボール界は、社会人の力がもうひとつ盛りあがらず、いぜん男女とも主流は学生勢が占めている。

来年のオリンピック予選、世界女子選手権を前に、日本にとってアジアで最大の強敵とみられる韓国から、ナンバー・ワンの両大学が来日するのは、トライアルゲームとしても注目してよい。

特に、男子の成均館大は、慶熙大(47年来日)とともに、韓国を二分する強豪で、ナショナルチームの主力をつねに占めているだけにその試合ぶりは興味深い。

日本には4年前に一度来ており日体大、関東学生には敗れたものの、関西、東北、東海の各学生選抜を破って気を吐いている。

その後も、遠征した日本勢とは互角の勝負を演じており、OBを加えた「全成均館」は、日本の実業団のトップクラスに優るとも劣らず、国際的にも有数の単独チームといってよいだろう。

来日メンバーで目立つのはなんといっても車聖福と金成憲だ。二人とも高校3年の時にナショナルプレイヤーとなり、ミュンヘンオリンピックアジア予選(46年11月)に乗りこんで来た。しかも、車はこの時、25ゴールをあげて得点王に輝やいた逸材。

金成憲の声価も高い。車とともに、46年8月、東亜高の一員として日韓高校に来日、アクロバティックなプロンジョン・シュートで日本の関係者をあぜんとさせた。

二人は揃って成均館大へ進み、今年3年生。ますますその技をみがいて、日本勢の前に立ちはだかる存在となった。

ちなみに、高校時代からこれまで、二人が日本チームを相手に奪ったゴールは77(車=36、金=41ともに9戦本誌調べ)である。

このほか金虎吉、李鍾七、崔掬鎮らの攻撃力も侮れない。名手金永年のカゲにかくれていたが、GK姜正炫の守りも手固い。

長身の新人・張星淳は、昨夏の高校交流で来日した高麗商のエース。

まとまりのある梨花女大

3年ぶり2度目の来日をする梨花女大も、韓国女子界ではリーダー的存在。

3年前のメンバーでは徐香南が残っているだけだが、実業団の白花醸造で活躍していた左腕・李純玩や今春3月、ジュニア選抜で来日したばかりの新進・張恵玉、金貞昊、キャリアのある全恵子、金延美らでまとまった陣容を誇る。

前回は1勝1分2敗で帰国しているが、今回は勝ちこしを目標に張り切っているという。

問題はGK。朴吉潤、沈順照が卒業、来日する朴京子と梁演貞については日本側に資料がない。朴はなかなか大柄だ。

日本勢の斗志に期待

一方、迎えうつ日本側も、オリンピックを2年後に控えて、好素質の目立つ各地学連がピックアップチームを編成、満を持している

日韓の学生界を比べた時、攻防の変化、多彩さでは日本が優るが試合に対する集中力(執着心)とジャンプ力では韓国が秀れている。

日本勢が勝ちこすためには、旺盛な闘志を忘れてはならない。

さもないと、成均館にしても梨花にしても、単独という利点があるだけに一気にたたみこまれそうだ。

男子では車、金成憲、女子では李の動きをどう食いとめるかも一つのポイントといえよう。

なお、前回までの通算成績は男子が37戦24勝4分9敗、女子が9戦5勝1分3敗で、日本側のリード。

恒例の西敏郎(全日本学連会長)杯は、男子の関東学生戦(6月8日)にかけられる。

選手団には金栄佑審判員が同行しており、日本側とペアを組んでの審判が予想される。

日程

▷来　日	6月1日・福岡空港着
▷6月2日	男女とも対九州学生選抜(福岡・九州産大体育館)
▷6月4日	男女とも対関西学生選抜(大阪市中央体育館)
▷6月6日	男女とも対東海学生選抜(名古屋・愛知県体育館)
▷6月8日	男女とも対関東学生選抜(東京体育館)
▷6月9日	男女とも対日体大～最終戦～(東京・日体大体育館)
▷帰　国	6月10日・羽田空港発

来日韓国学生選手団

【役　員】

▷団長	朴　淳哲	(50)	成均館大教授
▷総務	許　亨茂	(40)	韓国協会常任理事
▷審判	金　栄佑	(34)	韓国協会常任理事

【男子・成均館大】

	氏名	年令	身長	体重
▷監　督	崔　壬煥	(35)		
▷コーチ	姜　仁燮	(45)		
▷G　K	姜　正炫	(19)	173cm	72kg
	高　正奎	(19)	172	73
▷F　P	金　虎吉	(22)	173	74
	崔　掬鎮	(20)	170	65
	車　聖福	(19)	182	76
	李　鍾七	(22)	175	73
	金　成憲	(21)	170	64
	金　鍾声	(19)	177	68
	金　宜鎮	(18)	177	68
	姜　和鏞	(21)	182	75
	安　仁鎬	(20)	180	70
	張　星淳	(19)	184	72

【女子・梨花女子大】

	氏名	年令	身長	体重
▷監　督	趙　成煥	(46)		
▷コーチ	金　正秀	(30)		
▷G　K	朴　京子	(22)	167cm	57kg
	梁　演貞	(18)	144	54
▷F　P	徐　香南	(21)	158	58
	尹　英旭	(20)	165	59
	金　延美	(21)	167	62
	全　恵子	(19)	171	60
	宋　圭賢	(21)	164	54
	林　恵玉	(21)	164	58
	金　順子	(20)	167	57
	李　純玩	(19)	174	65
	金　貞昊	(18)	165	60
	張　恵玉	(18)	165	60

(　)内は年令

日韓女子社会人交流で好調

〔ソウルにて日本協会・富永劭理事(遠征選手団々長)発〕第4回日韓女子社会人交流大会に出場の日本実業団女子選抜チームは5月17日大阪から空路ソウル入り。20日釜山選抜と第1戦を行い、本誌〆切りまでに3戦3勝と好調に試合を進めている。

◇

▽第1戦(5月20日・釜山)

日本女子実業団選抜 10(6－2／4－2)4 釜山選抜

△日本の得点▽篠田(立石電機)3、植原(立石電機)、宮崎(ブラザー工業)各2、阿部(日本ビクター)原川(ブラザー工業)、遠藤(東北ムネカタ)各1

▽第3戦(23日・ソウル)

日本女子実業団選抜 11(7－3／4－6)9 全鳳永

▽第2戦は未入電(＝日本の勝ち)

8月釜山で日韓高校

今年の日韓高校交流は例年どおり、日体協の日韓高校交歓スポーツ競技会種目として韓国・釜山市で8月22、24日の2日間、日本側が遠征して行われる。

ハンドボールは、第9回を迎える男子と、2年目の女子が、それぞれ2試合するが、日本代表は8月2日から北九州で開く第25回全日本高校選手権の優勝校を予定。

なお、今年から選手数が男女各12名(1名増)となる模様。

村田、蒲生ら選出　日韓戦の関東学生

関東学連は、韓国の成均館大(男)、梨花女大と対戦する陣容を次のように決め発表した。

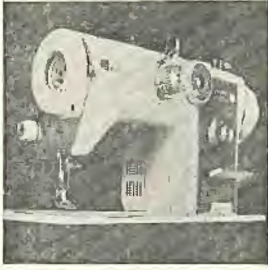
(男子)▽監督　三沢澄(早大監督)▽コーチ　一宮昌平(日体コーチ)▽選手・GK柴田(中央)、柴田(法政)▽FP喜井、橋本、中山、管野、斉藤幸(以上日体)、松本、大熊、蒲生(以上中央)、脇若、山田(以上早稲田)、村田(法政)、山岡(明治)、小宮(日大)

(女子)▽監督　藤原侑(日体監督)▽コーチ　高野亮(東女体大監督)▽選手・GK鍋田(東女体大)、田草川(日女体大)▽FP松本、坂本、菅井、寺尾、藤山(以上日体)、西田、赤岸、高橋、橋(以上東女体)永沢、山田(以上東京学芸大)、名賀(東京教大)、高田(日女体大)

「代議員制度」の採用へ

日本協会はかねてから、現行の評議員制度に代るものとして「代議員」制度の施行を検討中であったが、このほど、担当の大野常務理事により粗案ができあがり、来年度から切り替える公算が強くなった。

これは、全国評議員会が、評議員の多忙によって、委任状採決されるケースが多く、一部の評議員から再検討が望まれていたもの。田村正衛会長も、代議員制度の採用には積極的で、今秋までに日本協会規約の全面改正を行い、来年度の役員改選時から、新規約を施行するよう執行部に対しその準備を要望していた。現行規約は42年4月からのものだが評議員制度はすでに25年近くになる。





スタジオン・IF（デンマーク）主力2選手に聞く

デンマークから初来日したスタジオン・IF・コペンハーゲンは、日本で4勝1敗の好成績を残し、名門北欧の強豪らしいところを見せたが、このチームを支え、ヨーロッパ屈指のプレイヤーでもあるヨルゲン・フランドセンとベント・ヨルゲンセンの両選手にいろいろ話を聞いてみた。

二人とも今季限りで第一線を退くことが決まっており、日本遠征はその花道だった。

（聞き手・久田暁＝日本協会国際担当理事）

J・フランドセンに聞く

7年前にデンマークナショナル入り。以来、ゲームメーカーとしても、アタッカーとしても重きをなした。ミュンヘン五輪代表、今春の世界選手権にも出場している

――世界選手権でみた日本チームの印象は

「最近の日本は、次第に大型化し結構だと思うが、得点源は藤中、佐藤だけのようで、若い長身選手を鍛えなければいけないだろう。

私にとって、日本が小柄な天才的選手の集りで、次の展開にとまどうほど攻守両面で素早いプレーを見せた印象はもはや過去のものとなった」

――東欧勢の世界上位独占という傾向をどう思うか

「東欧諸国とスポーツの体制の違う我々はなんともいたしかたないことだ。

トップに立つナショナルの強化を、なんとか工夫しながら強化するか、西側の国際大会を増やすといった方法しか対抗手段はあるまい」

――あなたは、この日本遠征を最後に〝引退〟するそうだが

「電気技師として仕事のかたわらスタジオンIFの第二女子チームのトレーナーになるよう推せんされているので、喜んでやりたいと思っている。」

――今回の遠征で印象に残った試合は？

「京都での全日本戦についてはあまり語りたくない。我々はあと4～5回7MTを得てよかったし、5～6点差の負け試合だったと思う（注・全日本21—10）。この試合に敗れたあと、ヘンリクセン会長自らの提案で全員が禁煙したので、タフな大阪選抜に勝てた。彼があのような〝命令〟をしたのは初めてで全員びっくりした。これはこの遠征の思い出の一つだ」

B・ヨルゲンセンに聞く

8年前からデンマークナショナルの主力として活躍。ゲームの読みの深さには定評があり、スタジオンの全国優勝（2連勝）も彼の力に負うところが大。

――あなたは何才からハンドボールを始めたのか

「12才からだ。デンマークでは9～10才からハンドボールの正式なトレーニングをうける」

――これまで一番印象に残っている試合は。

「2年前、コペンハーゲンに当時最強のユーゴナショナルを迎え、巧い試合運びで相手をじらし勝った試合だ。ナショナルでも難敵のユーゴを、スタジオン単独で降したのだからちょっとした騒ぎになった。

巧い試合運びというのは、日本チームがよく見せるストーリング気味のオフェンスで相手になかなかボールを渡さない戦法である」

――今回の遠征に何を期待してきたか

「全日本をはじめアジアのトップチームと対戦して、ハンドボール技術の新しい可能性を研究することだった。

我々は常にこういう目的をもって遠征に出かける。

もう一つは、風俗、習慣、考えかたのちがう東洋のめずらしい生活を体験することだった。

我々はヨーロッパやアメリカ大陸には、もう試合以外に興味がない。

静岡で美しい富士山を見られ、評判どおりの新幹線の旅もすばらしかった。

おみやげはカメラ、時計、人形。音響製品を買った選手も多い。

しかし、最高のおみやげは、日本のハンドボールマンたちの暖いもてなしと友情だ。スウェーデンの仲間から、日本ハンドボール界との楽しい交流を聞かされ、我々も、なにがなんでも現役のうちに日本へ来てみたかった……」

――あなたもこの遠征を最後に引退されるそうだが

「今後は、F・アンデルセン監督の後継者として研さんし次のデンマークナショナルの監督という重責をいずれ負うことになります」

◇

なお、**アンデルセン監督**は「日本のハンドボール界は、東欧と西欧の中間的なトレーニングをしているように聞くが〝日本式〟の方がよいと思う。精神力を基盤にして限界に挑もうとする日本の考えかたは、強いチームをつくるためにはいちばん秀れた方法なのだ。

しかし、これはあくまでナショナルチームだけの話で、少年や中年のチームには、スポーツを生活のリズムの一つとして風習化したデンマークのやりかたを是非採り入れて欲しい。これが本当のスポーツの楽しみかただと我々は誇りに思っている。

日本には何千シートも大体育館はあるが、手ごろな小体育館が不足しているのではないか。デンマークには各市町村に必ず一つは小さな体育館があり、ハンドボールコートは正規の広さがとれる。

日本の実力は、予想どおりだった。最初の3試合はいささか手応えがなさすぎた。

全日本にはどうしても勝ちたかった。グンメルスバッハなど西ドイツの強豪がいずれも負けているそうだし、なおさら闘志をもやして臨んだのだが——。勝利は難しかったろうが、判定に選手が興奮してしまわなければ、もう少しせりあえたと思う。最近の全日本は大型化しているが、速さがカゲをひそめたのではないか。

日本のファンが待っていて下さったルントがヒザの負傷で来日できず申訳けなかった。全日本に対しても本当に失礼したと思っている」と語った。（文責・編集部）

アンケート特集　有力80チームの新布陣

〝モントリオール〟のあしおとが日増しに近づいているなかで新シーズンが開幕した。

本誌では、新戦力を今年も全国のトップクラス120チーム（選・編集部）にアンケート、回答を寄せた78チームの陣容を特集した。なお、日本実業団リーグに参加している男子6強（大同製鋼、本田技研鈴鹿、大崎電気、湧永薬品、三景、三菱レイヨン大竹）の布陣は本誌前号9頁を参照されたい。高校は昨年の男女1位のみ。

◇男子

（ABC順）

上段は今季の主戦メンバー　KはGK、FはFP、数字は身長。下段は新人選手、（　）内は出身校又は元の所属。

愛知教員（愛知）

K水　藤 174cm
F松　浦 172
　斎　藤 172
　長　縄 171
　深　津 177
　飼　沼 174
　川　口 175

……………………

堀　田（愛知教大）
梶　村（中京大）
木　村（東京教大）
　楠　（愛知教大）

AOK栃木（栃木）

K小　林 175cm
F山　田 167
　宮　田 165
　黒　岩 173
　石　塚 164
　新　井 178
　小　竹 178

……………………

藍　場（足利工）
島　田（足利工）
菊　地（足利工）

セントラル自動車（神奈川）

K片　桐 176cm
F羽毛田 169
　吉　沢 180
　加　藤 176
　渡　辺 170
　布　施 176
　川　原 174

……………………

仲　田（熊本一工）
内　野（博多工）
川　原（県石川工）

中央大（東京・関東学連）

K柴　田 171cm
F松　本 172
　上　村 178
　佐　野 170
　松下清 171
　大　熊 178
　藤　本 176
（蒲　生 193）

……………………

松下信（中大附高）
小　松（元大崎電気）
佐　藤（中大附高）
長　野（熊本市商）
大久保（若松高）
加　藤（日体荏原高）
藤　井（桃山学院高）
福　田（笠間高）

福島SGクラブ（福島）

K石　井 178cm
F佐　藤 170
　武　田 171
　石　森 178
　斎　藤 173
　遠　藤 180
　真　田 169

……………………

遠藤（聖光学院工）
真田（聖光学院工）
阿部（聖光学院工）

函館有斗クラブ（北海道）

K沢　谷 178cm
F大　橋 182
　佐　藤 180
　三　浦 185
　　前 176
　竹　谷 165
　川　村 168

……………………

保　坂，福　井
奈　良，八　木
星　野
（いずれも函館有斗高）

氷見クラブ（富山）

K中　山 173cm
F浦　野 172
　高　橋 170
　解　田 168
　沢　武 165
　海　下 170
　　森 172
（　関 167）

……………………

なし

広島修道大（広島・中四国学連）

K田　中 168cm
F増　根 172
　木　村 168
　小　松 168
　綿　平 167
　森　岡 172
　　迫 173

……………………

木　村（崇徳高）
山　下（崇徳高）
山　中（萩高）
川　地（呉宮原高）
重　村（呉宮原高）

岩手教員クラブ（岩手）

K砂子田 172cm
F石　川 178
　田　村 175
　熊　沢 170
　谷　藤 170
　岩　田 170
　千　葉 170

……………………

工藤（日体大）

自衛隊勝田（茨城）

K柳　林 171cm
F小　松 174
　平　山 166
　高　岡 177
　増　田 175
　額　賀 166
　田　山 189

……………………

藤　枝（笠間高）
　滝　（磯原高）
竹　内（日国高）
大坂間（少年工科校）

海上自衛隊下総（千葉）

K田　上 171cm
F奥　原 170
　鈴　木 170
　西　田 173
　平　沢 168
　末　崎 172
　横　山 173

……………………

中　薗（水俣高）
桑　原（拓植大）
宮　本（鶴舞高）

海上自衛隊第一航空群（鹿児島）

K松　岡 180cm
F中水流 173
　平　野 183
　中　一 170
　立　野 170
　山　下 175
　伊　東 174
（埒　170）

……………………

平　野
（元海上下総）

金沢市役所（石川）

K竹　中 180cm
F北　野 178
　水　野 172
　石　野 173
　瀬　藤 165
　金　森 175
　森　谷 168

……………………

八日市屋
（金沢工大）

金沢工大（石川・北信越学連）

K酒　谷 182cm
F玉　村 170
　田　中 170
　中　村 171
　野　村 175
　原　子 180
　亀　田 180

……………………

石井（豊川工）
渡部（青森東高）
瀬戸（石川工）
荒木（尾張高）
清水（富岡高）

近大（大阪・関西学連）

K岡　本 176cm
F小　川 170
　石　川 176
　政　香 165
　　菅 170
　西　辻 182
　夏　原 172

……………………

藤田久（大阪商）
田　辺（大阪商）
長谷川（大阪商）
島　川（北陽高）
藤田喜（新田高）

京都産業大（京都・関西学連）

K日比富 173cm
F大　原 176
　西　沢 172
　天　本 176
　　島 165

……………………

生　駒（生駒高）　北　野（生駒高）
杉　本（枚方高）　木　村（岩国工）
伴　田（枚方高）　村　上（星稜高）
日比隆（不破高）　松　村（生駒高）
藤　本（岩国工）　松　山（北陸高）
大　西（滝川高）　松　井（岐阜商）
青　木（高知追手前高）

熊本商科大（熊本・九州学連）

K小川 175cm
F霜本 165
渕上 170
小松 165
三村 170
平畑 172
…………
大村（済々黌高）
満吉（鹿児島商）

光電工業富岡（群馬）

K須貝 171cm
F飯野 166
今井 171
永井 170
佐藤 175
野口 171
岩松 172
…………
市川（富岡高）
永井（富岡高）
中沢（富岡高）
井上（富岡高）

神戸製鋼（兵庫）

K大谷 178cm
F角谷 173
笹野 175
若本 175
田路 170
赤嶺 173
田中 168
…………
江口（初芝高）
須藤（武庫工）
中屋（下関工）
述（武庫工）
柴田（初芝高）

甲南大（兵庫・関西学連）

K加藤 172cm
F中村 166
武田 168
川西 179
石橋 180
伊藤 168
藤島 185
…………
山本（西宮東高）
谷本（北淀高）
藤田（清風高）
砂原（春日丘高）
島田（千里高）
林（夢野台高）

丸善石油松山（愛媛）

K塩田 175cm
F篠原 180
神野 170
石川 176
泉 175
木村 165
土井 178
…………
土井（新居浜工）
岩本（大阪府大）

三井石油化学（千葉）

K中山 170cm
F弘中 175
田中 172
佐藤 173
河村 168
高重 162
安藤 169
（円東 178）
…………
なし

三菱油化（三重）

K小林 171cm
（野呂 173）
F栗山 172
田島 178
市川 171
鈴木 170
牛場 174
堀 178
…………
小林（四日市工）

三春台クラブ（神奈川）

K井上 173cm
F尾島 170
大山 180
植木 178
斎藤 172
小石川 170
長谷川 171
…………
松村（関東学院大）

三重教員団（三重）

K神谷 174cm
F夏目 181
坂本 176
松ケ谷 175
秋山 170
梶川 168
中根 170
…………
神谷（大阪体大）
坂本（大阪体大）
夏目（中京大）
松ケ谷（広島大福山）

名城大附属高（愛知）
〜48年度全日本高校優勝校〜

K原 178cm
F鈴木 174
安藤 177
宮地 163
近藤 165
小田 169
三田 165
…………
桜田
日比津
横須賀
大和

名城大（愛知・東海学連）

K杉浦 173cm
F佐藤 175
田中 179
山本 179
杉山 171
荒駒 168
岩田 163
…………
高橋（都島工）
西浜（枚方高）
飯沼（岐阜南高）
谷元（名城大付）
山下（岐阜南高）

明治大（東京・関東学連）

K高木 180cm
F山岡 180
指宿 175
山根 169
石井 175
加納 168
江幡 180
（岡部 183）
（松本 172）
…………
高木（岩国高）

日本大（東京・関東学連）

K上野 179cm
F小宮 158
金子 181
潮田 163
大隅 172
阿部 172
西子 175
…………
新井田（函館有斗高）
根本（磯原高） 山本（坂城高）
中村（坂城高） 桜井（富岡高）
中庭（那賀高） 田山（麻生高）
内藤（福岡高） 柳町（坂城高）

日本発条（神奈川）

K岡部 175cm
F北村 172
小野口 170
福田 170
伊沢 176
井上 181
及川 181
…………
高洲（早鞆高）

日本鋼管福山（広島）

K一色 180cm
F浜田 168
西田 180
辺見 180
篠田 180
挟間 178
小松 170
…………
なし

日本合成ゴム四日市（三重）

K後藤秀 180cm
F鈴木 175
松永 178
位田 170
萩原 161
渡部 159
後藤浩 165
…………
山下（四日市中央工）

日新製鋼呉（広島）

K三田 180cm
F下茂 178
吹上 171
村川 179
松木 171
吉田 177
越智 179
…………
金光（三原工）
浜岡（高水高）
土井（下関工）

二和家具工業（岐阜）

K新村 180cm
F足立 172
高木 170
長谷川 176
古川 174
斎藤 162
伊丹 168
…………
長谷川（法政大）
伊丹（岐阜南高）
青谷（岐阜南高）
駿河（隼人高）
水谷（大垣農）

大阪ガス（大阪）

K梶原 173cm
F恵美 165
小西 170
藤田 170
藤井 170
竹内 170
柊 168
…………
藤田
山本
（ともに大阪瓦斯高）

大阪経済大（大阪・関西学連）

K木村勝 175cm
F橋本 176
二宮 170
太田 170
石井 175
塩川 175
林 170
…………
木村勝（泉大津高）
木下（口加高）
木村純（口加高）
篠原（佐野工高）
石田（鈴蘭台高）

大阪大（大阪・関西学連）

K森 172cm
F大山 160
新家谷 176
蒲池 171
海野 163
三木 176
華井 180
…………
清見（甲陽学院）
森（天王寺高）
小山（奈良高）
森島（三国丘高）
丹羽（三国丘高）

大阪イーグルス（大阪）

K広川 176cm
（本田 176）
F福井稔 173
福井孝 173
高橋 165
池本 175
安達 167
河原崎 177
（早川 180）
…………
福井孝（日体大）

大阪体大（大阪・関西学連）

K藤井 174cm
F山内 177
宇尾野 171
藤田 171
根本 177
矢辺 170
能波 183
…………
岸本（兵庫工）
島中（乙訓高）
青木（境工）
稲田（成器高）
多田（浪商高）
山本（添上高）
東田（添上高）

大山商会（大阪）

K川原 181cm
F水谷 168
奥川 172
前島 176
佐藤 165
伊藤 177
山口 170
（越智 170）
（川村 183）
…………
根木（堺商）

境港市役所（鳥取）

K松本吉 182cm
F門永昭 174
宮辺 174
松本正 182
井田 164
松本理 165
門永幸 166
…………
里（境工）
二瀬（近大）

三陽商会（東京）

K	吉近	174cm
F	白柳	180
	近森	183
	鈴木	176
	稲木	178
	石田	180
	小林	170

吉近（中大）
白柳（大阪体大）
鈴木（名城大附属高）
稲木（修善寺二高）

静岡県教員団（静岡）

K	山口	176cm
F	入山	174
	杉山	176
	寺田	174
	井上	170
	矢吹	172
	小林	169

細沢（日体大）
平山（日体大）

住友化学菊本（愛媛）

K	藤田	181cm
F	白石	167
	森谷	166
	金剛	181
	原	165
	伊藤	165
	曽我部	170

なし

スワロー兵庫（兵庫）

K	上野	168cm
F	畑	178
	井上	173
	木野	176
	黒田	172
	中村	171
	松岡	182

上中（日体大）

住友金属（和歌山）

K	中西	182cm
F	福田	175
	羽場	173
	寺西	177
	山崎	170
	中村	165
	河原	170

西南学院大（福岡・九州学連）

K	築地	172cm
F	長崎	165
	藤野	172
	栗須	165
	岡本	174
	出田	172
	福崎	170

内藤（西南学院高）
三浦（西南学院高）
宮脇（福岡高）
岩田（創価高）

仙台大（宮城・東北学連）

K	遠藤	178cm
F	伊東	170
	会田	170
	下村	170
	中西	170
	千代谷	180
	徳能	180

早坂（祇園寺高）
千葉（古川商）
大須賀（三本木高）
作田（三本木高）
額田（函館有斗高）
加藤（函館有斗高）
佐藤（函館大谷高）

武田薬品光（山口）

K	清水	166cm
F	長棟	165
	和田	184
	末長	170
	吉田	173
	笹野	165
	三宮	161

なし

東北学院大（宮城・東北学連）

K	熊谷	180cm
F	千葉	180
	佐々木	180

熊谷（仙台商）
大友（仙台商）
門脇（仙台商）
井上（塩釜高）
佐々木（仙台育英高）

トヨタ車体（愛知）

K	遠山	173cm
F	山田	165
	山口	175
	宮松	174
	松本	170
	高橋	168
	榊原	175

榊原（名南工）
鈴木（名南工）
末岡（石川県工）
荒木（八幡工）
上田（熊本一工）

◇女子（ABC順）

ブラザー工業（愛知）

K	井戸田	161cm
F	島居	163
	原川	161
	宮崎	165
	小森	166
	佐々木	154
	藤浪	161

山口（国分実業高）
宮平（那覇商）
中川（小松市女高）

福岡教育大（福岡・九州学連）

K	広田	164cm
F	古賀	157
	谷川	160
	永見	154
	末永	153
	下川	158
	足達	155

安田（玉野高）
田中（大村高）
川上（佐世保南高）
坂口（双国高）

伏原紡織（愛知）

K	中山	155cm
F	末光	158
	一政	154
	平田	154
	島田	165
	深見	158
	杜	156

鎌田（九州女短大）
松尾（西郷中）
岩本（八代二中）

日立栃木（栃木）

K	粂谷	161cm
F	鈴井	160
	桜庭	155
	山井	156
	鈴木昌	168
	小根沢	155
	土屋	158

晴山（岩手女高）
藤田（六郷高）
小山（小諸商）
大岩（真備高）
向井（進徳女高）
大金（馬頭高）

小松OG（石川）

K	竹下	168cm
F	貝野	158
	千歩	164
	西出	164
	山際	164
	島野	155
	崎田	160

竹下（元愛知教員）
貝野（小松市女高）
北村（北陸大谷高）
山際（小松市女高）
島野（小松市女高）
崎田（小松市女高）
屋敷（小松市女高）

小松市立女高（石川）
〜48年度全日本高校優勝校〜

K	新開	160cm
F	西出	156
	坂	148
	北村	160
	南出	164
	千歩	171
	本田	160

酒谷（丸内中）
小野森（芦城中）
浅井（芦城中）
西出（中海中）
田中（福井・河和田中）

武庫川女大（兵庫・関西学連）

K	吉田	164cm
F	寺尾	155
	辻	155
	赤尾	161
	三輪	163
	井上	163
	小西	153

沢田（粉河高）
岩井（東大阪高）
藤本（神戸女商）
田村（初芝高）
佐野（鈴蘭台高）
中塚（住吉学園高）
鐘ヶ江（泉北高）
古藤（三島高）
園山（四天王寺高）

室蘭クラブ（北海道）

K	善陸	165cm
F	山口	162
	高橋	156
	後藤	157
	藤田	155
	尾崎	165
	泉	152

三浦（室蘭商）
坂本（室蘭商）
相打（室蘭商）

日本ビクター（茨城）

K	渡辺	162cm
F	阿部	165
	蓮見	162
	谷沢	164
	額賀	163
	高野	152
	加藤	165

穂積（涌谷高）
安住（涌谷高）
畑中（涌谷高）
小島（水海道二高）
斎藤（鉾田二高）
横島（岩井高）

寝屋川クラブ（大阪）

K	組見	160cm
F	畑中	158
	太田	152
	岩本	160
	坂倉	158
	津熊	153
	北村	163

畑中（東京教大）

日本体育大（東京・関東学連）

K	鈴木	158cm
F	松本	156
	坂本	168
	坂上	156
	菅井	153
	藤山	161
	小田	159

大森（国学院栃木高）
寺尾（吉原高）
藤井（明倫高）
堀田（有磯高）
森（三本松高）

大谷クラブ（大阪）

K	吉川	158cm
F	中村	155
	辻江	162
	吉本	160
	二村	155
	岡西	157
	松本	156

土井（大谷高）
雪本（大谷高）
中西（大谷高）
岡本（大谷高）

大崎電気工業（埼玉）

K	西村	166cm
F	岩井	158
	大場	164
	長谷川	160
	席定	158
	深堀	162
	内野	152

中島（神埼農）
鹿沼（深谷女高）

田村紡績（三重）

K	久保	161cm
F	横山	160
	和久井	154
	鈴木	161
	松下	163
	沖	160
	三毛	163

林（市邨学園）
河田（山陽女高）
山本（大淀中）
上山（中部中）
平田（宇部女高）

立石電機（熊本・新設チーム）

K	森山	164cm
	佐用	158
F	篠田	164
	山下	160
	加子崎	160
	長田	173
	島田	163
	蔵田	163
	植原	153
	石井	164
	林	193
	平下	161
	矢田	165

（以上元大洋デパート）

K	和田（元大崎電気）	167
	紀野（大分東高）	165
F	根岸（熊本女高）	160

東花クラブ（東京）

K	佐藤	164cm
F	河村	156
	荒井	159
	槙尾	163
	岡田	154
	上原	152
	益子	159

藤井（神代高）

東京女体大（東京・関東学連）

K	鍋田	160cm
F	西田	154
	赤岸	153
	篠倉	169
	高橋	158
	橘	157
	野口	160

岩永（神埼農）
梶原（佐賀女高）
甲斐（山陽女高）
笠原（浦和市高）
黒沢（涌谷高）
松本（国学院栃木高）
中田（神戸女商）
渡辺（栃木女高）
山南（神戸女商）
川俣（栃木女高）

徳山高OG（山口）

K	広林	163cm
F	山本	160
	吉村	160
	田中	166
	高松	158
	渡辺	158
	深見	159

左川（徳山高）
高木（徳山高）
原谷（徳山高）
森下（徳山高）

東京重機工業（東京）

K	三紙	163cm
F	古佐原	153
	市川	158
	菊地	162
	折口	151
	村上	167

田中（江東商）
松田（佼成学園）

豊田工機（愛知）

K	今村	163cm
F	藤田	160
	榊原	160
	都築	157
	近藤	155
	新実	155

浜口（安城学園）
黒柳（岩津高）

東北ムネカタ（福島）

K	中村	165cm
F	後藤	160
	遠藤	160
	有賀	165
	細谷	165
	鈴木	164
	清水	170

郷（石川高）
本郷（石川高）
佐藤（祇園寺高）
近内（郡山女高）

東京教育大（東京・関東学連）

K	坂梨	160cm
F	名賀	160
	白鳥	162
	土屋	157
	神宮	155
	吉本	151
	坂本	166

坂本（栃木女高）
清水（都小岩高）
松永（浦和一女高）
野村（浦和一女高）
青木（都三田高）
菊地（都大崎高）

山口大（山口・中四国学連）

K	平岡	162cm
F	花ケ崎	155
	藤原	155
	宮崎	162
	村田	153
	秋村	156
	森田	155

秋村（岩国高）
森田（浜田高）
矢野（小倉西高）

〆切り後到着分（順不同）

男・青森クラブ（青森）

K	小野	170cm
F	田辺	181
	山上	178
	三上	167
	長村	181
	辻村	178
	高橋	181

阿部（弘前南高）
原田（柏木農高）

男・長岡工専（新潟）

K	阿部	170cm
F	小玉	170
	金田	177
	小山	165
	小林	173
	安達	169
	高橋	181

渡辺（亀田中）
竹前（亀田中）
徳永（鳥屋野中）
八木（荷頃中）

男・丸善石油下津（和歌山）

K	海瑞	175cm
F	堤本	176
	三木	165
	辻井	171
	刀弥	176
	松本	177
	松川	172

塩崎（御坊高工高）
楠山（甲南大付）

女・大和銀行（大阪）

K	森	160cm
F	松下	162
	倉	156
	河野	154
	東納	163
	田守	154
	前野	154
	（小元	155）

倉（武庫川女大）
東納（愛泉高）
田守（愛泉高）
前野（福島女高）
河野（愛泉高）
茶野（愛泉高）
小元（愛泉高）
森（愛泉高）

★……アンケート未着のチームもありますが、この特集は今号で打ち切らせていただきます。（編集部）

北大、圧倒の全勝優勝

北海道
◇4月27～29日◇札幌・北大体育館◇参加6校

昨年の5月独立した北海道学連にとって、春季リーグは初めて。

予想どおり北大が得意の速攻で他校を圧し、守備面でも手固いプレーをみせ釧路教大に10点を奪われた以外は、すべて一ケタの失点におさえる好調、5戦全勝して優勝を飾った。

秋の記録を加えると6度目の北海道制覇である。

北見工大 15（7－2、8－1）3 室蘭工大
北大 20（9－4、11－6）10 釧路教大
旭川教大 35（19－5、16－6）11 小樽商大
北大 15（7－2、8－2）4 室蘭工大
釧路教大 13（6－5、7－8）13 旭川教大　引き分け
北見工大 25（14－5、11－1）6 小樽商大
室蘭工大 14（4－5、10－5）10 旭川教大
釧路教大 39（21－2、18－8）10 小樽商大
北大 22（11－3、11－2）5 北見工大
室蘭工大 21（8－4、13－5）9 小樽商大
北大 20（9－3、11－3）6 旭川教大
北見工大 13（3－7、10－3）10 釧路教大
北大 23（10－1、13－2）3 小樽商大
室蘭工大 15（5－4、10－4）8 釧路教大
旭川教大 12（6－5、6－7）12 北見工大　引き分け

【順位】①北大5戦全勝②北見工大3勝1分1敗③室蘭工大3勝2敗④旭川教大1勝2分2敗⑤釧路教大1勝1分3敗⑥小樽商大5敗

後　記

昨秋のリーグ戦で北見工大が常勝北大と引き分けたことなどから、各校の実力接近が予想され、大会は熱気のこもったスタートを切った。

第1日、北見工大、旭川教大が好調な出足を見せたが、北大は釧路教大に食いさがられ、辛くも逃げこんだものの、以後の優勝争いに期待がもたれた。

しかし第2日に無敗で対戦した北大×北見工大戦でディフェンスに優る北大が完勝、第3日も北大が充実した守りからの速攻で旭川教大、小樽商大を寄せつけず全勝優勝を決めた。

2位以下は混戦模様となったが北見工大が最終戦の旭川教大戦に苦戦しながらも引き分けて2位を確保、3位には終盤追いあげた室蘭工大がついた。第1日に大勝した旭川教大は第2日から試合運びの拙さで勝ち星を加えられず4位、昨秋2位で今回も有力視された釧路教大は意外な不調、小樽商大は他校にやや水をあけられた感じ。

リーグ全体を通して、東北・北海道学連時代に比べてのレベル低下は否めず、各校の更なる努力が望まれる。最多得点者は20ゴールした田中、笹森（ともに釧路教大）と軽部（北見工大）の3選手。

（矢橋東人・北海道学連委員長）

中京、終盤に逆転し優勝

先行の利活かせず名城惜敗

東海
◇4月28日～5月6日◇名古屋・南山大球技場◇参加1部6校、2部9校

ライバル同士中京、名城がともに危気ない試合ぶりで勝利を重ね最終戦で興味満点の対決となったが、試合運びに優る中京が、タイムアップ1分前、布垣のゴールで勝ちこし、優勝を決めた。

試合は名城が、スタートこそ中京の先行を許したが、前半なかばから、強気の速攻を実らせて優位に立ち、後半15分までリードを奪った。

しかし、中京も粘り、17分11－11に追いつき勢いにのって19分逆転に成功、がぜん白熱した。

一進一退、13－13のあと、名城は26分山本のゴールで再び主導権をつかむかにみえたが、中京は分三宅が同点ゴールを決め、劇的な逆転優勝への足場をつくった。名城は後半9分11－9から一気に引きはなすべきチャンスを射ち急ぎなどで12分間ノーゴールの拙攻が悔やまれよう。中京は8シーズン連続28度目の優勝である。

3位以下では、出足好調の南山が他をおさえたが、すでに10シーズンも上位2校が固定しており、なんとかこの壁を破る気力を各校は示して欲しい。

2部は、参加9校をまず3組に分けて、リーグ戦、各組同位者による順位戦を行った結果、昨秋につづき愛大豊橋が三重大らをかわして優勝（通算3度目）した。

しかし、入れ替え戦では、名大のふんばりを切り崩せず1部入りは成らなかった。

▽1部

南山 11（5−2、6−6）8 岐阜大
名城 19（8−3、11−5）8 愛知教大
中京 24（10−2、14−1）3 名大
中京 18（10−5、8−4）9 愛知教大
名城 16（5−3、11−6）9 岐阜大
南山 18（8−1、8−4）5 名大
名城 22（12−1、10−5）6 名大
中京 15（7−6、8−3）9 南山
岐阜大 14（8−2、6−6）8 愛知教大
中京 26（16−3、10−8）11 岐阜大
名大 16（8−9、8−7）16 愛知教大
引き分け
名城 21（8−6、13−2）8 南山
南山 25（13−8、12−3）11 愛知教大
岐阜大 9（6−4、3−4）8 名大
中京 15（7−9、8−5）14 名城

	【名城】	得	【中京】	得
GK	杉浦	0	横山	0
GK	木村	0	千田	0
FP	佐藤	3	妻鹿	0
FP	田中	1	伊賀	0
FP	山山	7	布垣	4
FP	杉本	0	岸見	2
FP	岩田	0	佐藤	3
FP	荒駒	1	三宅	4
FP	西尾	0	北田	0
FP	高橋	2	村上	2
FP	西浜	0	小島	0
FP	谷元	0	西脇	0
7MT	（3）	14	（1）	15

（審・松井、岩見）

【順位】①中京5戦全勝②名城4勝1敗③南山3勝2敗④岐阜大2勝3敗⑤愛知教大1分4敗（得失点差マイナス40）⑥名大1分4敗（マイナス49）

▽2部Aブロック

愛大豊橋 14—7 中部工大
名工大 13—9 中部工大
愛大豊橋 15—9 名工大

【順位】①愛大豊橋②名工大③中部工大

▽同Bブロック

滋賀大 18—17 愛大名古屋
名古屋学院 12—7 愛大名古屋
滋賀大 23—4 名古屋学院

【順位】①滋賀大②名古屋学院③愛大名古屋

▽同Cブロック

三重大 14—10 静岡大
静岡大 不戦勝 愛知工大
三重大 不戦勝 愛知工大

【順位】①三重大②静岡大③愛知工大

▽同7〜9位決定リーグ

愛大名古屋 18—9 中部工大
中部工大 不戦勝 愛知工大
愛大名古屋 不戦勝 愛知工大

▽同4〜6位決定リーグ

名工大 19—14 名古屋学院
静岡大 18—9 名古屋学院
名工大 18—16 静岡大

▽同1〜3位決定リーグ

愛大豊橋 15（9−4、6−10）14 滋賀大
三重大 14（7−4、7−6）10 滋賀大
愛大豊橋 8（6−2、2−5）7 三重大

【2部順位】①愛大豊橋②三重大③滋賀大④名工大⑤静岡大⑥名古屋学院⑦愛大名古屋⑧中部工大

▼1・2部入れ替え戦（5月12日、南山大）

名大1部残留

名大（1部）8（2−2、6−5）7 愛大豊橋（2部）

女子も中京動かず

東海（女子）

◇4月28日〜5月6日◇名古屋・南山大球技場◇参加4校

4校2回総当り戦。緒戦で中京が中京女に引き分け、波乱ぶくみの幕あけとなった。しかし、第2日からは中京の地力が他校をやはり上廻り、岐阜大、愛教大などは善戦に留った。

2位争いは、三つどもえの混戦だったが、愛知教大が1引分の優位を活かして久々に浮上、岐阜大が3位についた。出足好調の中京女は、2次リーグに入ってくずれ最終戦を飾っただけで最下位に落ちた。

▽1次リーグ

中京女 2（0−1、2−1）2 中京
引き分け
愛知教大 9（4−0、5−2）2 岐阜大
岐阜大 7（5−1、2−5）6 中京女
中京 10（6−2、4−4）6 愛知教大
中京女 5（1−2、4−3）5 愛知教大
引き分け
中京 3（1−1、2−0）1 岐阜大

▽2次リーグ

中京 9（4−2、5−2）4 中京女
愛知教大 9（4−3、5−2）5 岐阜大
岐阜大 7（5−3、2−2）5 中京女
中京 13（6−3、7−3）6 愛知教大
中京 10（3−2、7−2）4 岐阜大
中京女 6（3−2、3−3）5 愛知教大

【順位】①中京5勝1分②愛知教大2勝1分3敗③岐阜大2勝4敗④中京女1勝2分3敗

中京大の優勝回数 中京大(男)の通算優勝回数が、ここ数シーズン、東海学連発表と本誌調べで食いちがっている。本誌が34年春を優勝と記録したためのようで読者の資料提供を待ちたい。同学連は35年まで春は1部制、秋は2部制という変則法式のハズである

中央3季ぶりの優勝(4度目)

～日体、最終2戦で力つく～

健斗光る明治　早稲田の連勝成らず

関東(1・2部)
◇4月27日～5月19日◇東京駒沢屋内球技場、同体育館◇参加1部8校、2部8校

第2日に、学生チャンピオンの法政が明治の食い下りにあい引き分ける小波乱があった。

法政は、後半16分15―10とはなし、そのままのペースで進むかに見えたのだが、そのあと明治は粘り、残り40秒で得た7MTを山岡が決めて15―15、引き分けにもちこんだ。

法政にとって4強戦を前にしてこれは大きな誤算で第5日、中央に敗れたところで争覇圏から後退をよぎなくされた。

好調に勝ち進んだのは日体、前半4戦で121得点、47失点という強味をみせ、早大戦も一気の速攻を実らせて快勝、優勝一番手の実力とみえた。

ところが、最大のヤマとみられた第6日の中大戦では、攻守ともまったく鋭さを欠き、かさにかかって攻めこむ中央に押しまくられて手痛い1敗、最終戦も、奮起した法政のスピード攻撃をかわしきれず2敗となり、王座の奪還は成らなかった。

一方、中央は尻上りの好調を示し、第6日はやばやと優勝を確定し(注・同率の場合は復数優勝)、最終戦でも連勝を狙う早稲田を攻めたてて快勝、3シーズンぶり4度目の栄冠を手にした。全勝優勝は46秋、47秋につぎ3度目

昨秋優勝の早稲田は、第5日日体に敗れたものの、中央戦に勝てば同率首位ののぞみを残したのだが、得意の豪放な攻撃を見せることができず自滅した。

B級では明治の活躍が光った。総勢9人、しかもGK高木(1年岩国高)はFPから転向したばかりというハンデを背負いながら、気力に満ちた試合ぶりで、戦い抜いた。8年ぶりの4位復帰は逸したが、前半のリーグを盛りあげたのは賞されよう。

日大、慶応、学芸大は、攻撃力は一応のまとまりをのぞかせたがディフェンスがもろすぎる。得点王は45ゴールをあげた中山富夫(日体大4年、向の岡工出)。

2部は、芝浦工大が復調の兆をみせ、柳沢、柳原を中心とした攻撃陣で危気なく全勝、昨秋につづき1部復帰への足がかりをつかんだ。2位以下は混戦模様だったが東京教大が巧く抜け出して2位。47年秋加盟以来、順調に勝ちあがってきた駒沢は、やはりキャリアの浅さをあらわし、教大を降しながら、明星、国士館に敗れたのが痛く惜しくも3位にとどまった。4位には明星・国士館・関東学院が並んだ。

得点王は53ゴールの柳沢益夫(芝浦工大3年、足利工出)。

1・2部入れ替え戦慶応×東京教大、東京学芸大×芝浦工大の2試合は5月30日駒沢で行われる予定。

▽1部

早稲田 30(18―4、12―0)4 東京学芸大
中央 26(15―6、11―10)16 日大
法政 23(15―7、8―6)13 慶応
日体 23(9―6、14―6)12 明治
日体 33(18―9、15―4)13 慶応
中央 31(19―5、12―2)7 東京学芸大
法政 15(7―8、8―7)15 明治
引き分け

得	【法政】		【明治】	得
0	森田	GK	高木	0
0	柴田	GK		
2	矢島	FP	指宿	2
2	荒井	FP	山岡	5
1	高橋	FP	山根	2
0	大西	FP	石井	4
2	上滝	FP	江幡	1
5	村田	FP	加納	1
3	青山	FP	岡部	0
0	阿部	FP	寺岡	0
0	古関	FP		
0	辻	FP		
15	(0)	7MT	(5)	15

早稲田 23(11―7、12―7)14 日大
法政 18(9―3、9―6)9 東京学芸大
日体 30(20―4、10―6)10 日大

関東学生春季(男子1部)

	中	早	体	法	明	日	慶	学	P	勝	分	負
①中央	…	○	○	○	○	○	○	○	14	7	0	0
②早稲田	●	…	●	○	○	○	○	○	10	5	0	2
②日体	●	○	…	●	○	○	○	○	10	5	0	2
④法政	●	●	○	…	△	○	○	○	9	4	1	2
⑤明治	●	●	●	△	…	○	○	○	7	3	1	3
⑥日大	●	●	●	●	●	…	○	○	4	2	0	5
⑦慶応	●	●	●	●	●	●	…	○	2	1	0	6
⑧学芸大	●	●	●	●	●	●	●	…	0	0	0	7

【2部順位】①芝浦工大7戦全勝②東京教大5勝2敗③駒沢4勝3敗④明星・関東学院・国士館3勝4敗⑦千葉工大2勝5敗⑧東海1勝6敗

早稲田	26	14−5	12−6	11	慶応
中央	20	8−6	12−7	13	明治
中央	29	14−5	15−4	9	慶応
法政	21	9−6	12−7	13	日大
早稲田	26	15−7	11−4	11	明治
日体	35	19−5	16−7	12	東京学芸大
日大	24	8−14	16−3	17	慶応
明治	22	11−1	11−8	9	東京学芸大
日体	16	10−7	6−8	15	早稲田
中央	14	9−4	5−7	11	法政
慶応	19	11−8	8−9	17	東京学芸大
明治	20	12−8	8−4	12	日大

得	【日体】		【早大】	得
0	奥　川	GK	山田章	0
0	斎藤将	GK	阪　本	0
1	喜　井	FP	脇　若	2
1	橋　本	FP	菊　池	3
7	中　山	FP	川　畑	5
0	竹　本	FP	山田克	0
3	管　野	FP	山　高	2
2	斎藤幸	FP	岡　本	3
0	坂　本	FP	明　石	0
2	大　房	FP	鈴　木	0
0	庄　司	FP	泉	0
0	後　川	FP	甘　利	0
16	(0)	7MT	(2)	15

得	【中央】		【法政】	得
0	柴　田	GK	森　田	0
0	田　村	GK	柴　田	0
3	松　本	FP	矢　島	1
0	上　村	FP	荒　井	0
0	植　木	FP	大　西	0
0	松　下	FP	上　滝	1
5	大　熊	FP	村　田	7
0	藤　本	FP	青　山	1
1	戸　田	FP	阿　部	1
5	蒲　生	FP	古　関	0
0	関	FP	辻	0
0	西　窪	FP	中　野	0
14	(1)	7MT	(4)	11

得	【慶応】		【学芸】	得
0	米　内	GK	阿　部	0
1	福　地	FP	江　成	0
1	木　村	FP	古　俣	2
7	川　崎	FP	内　記	5
4	勝　地	FP	古屋一	3
5	西　村	FP	金　村	2
0	川原田	FP	早　川	0
0	西	FP	谷　口	5
0	矢　島	FP	古屋正	0
0	浅　野	FP	星	0
0	伊牟田	FP	富　田	0
18	(4)	7MT	(0)	17

4強激突の経過

中央×法政（第5日）スタートから壮烈な射ちあいとなり、わずかに法政が村田の巧技で押し気味に進めた。しかし、中央は後半10分すぎから猛反撃、5—8から一気にタイとし、17分松本のゴールで10—9と逆転した。リードされた法政は、焦りをのぞかせ無理な態勢からのシュートが多く、逆速攻をうけて終盤は完全に中央のペース。

日体×早稲田（第5日）、興奮の極に達した場内の大歓声を背に残り20秒、日体は管野が劇的な決勝ゴールを奪った。

後半5分までは早稲田のペース。日体の苦況を救ったのは中山の鮮やかな攻撃力だった。連続5ゴール、劣勢をはね返したばかりか、勝利の下地を造った。早稲田は終盤、後手に廻り12—14から15—15と粘ったものの追い抜けなかった。

早稲田×法政（第6日）前半はまったく互角に進んだが、早稲田は24分5—6から連続3ゴールして波にのった。この勢いを後半にも持ちこみ、15分までに脇若、菊池らで6点を加え14—6と大きくリードした。

法政は、当りの強い早稲田ディフェンスに、得意のパスプレーを封じられ前半20分から25分間無得点という不調がたたった。

中央×日体（第6日）激しい声援がとびかう中でエキサイトした展開となり15分までは一進一退だった。しかし攻撃力は突進力と変化技を巧みに使い分ける中央が一枚上。特に15分から27分までに7連取、11—5とした攻撃には目を見はらされた。

日体は後半、14—18まで反撃したが、そのあと再び中央の猛攻をあび思わぬ大敗を喫した。

法政×日体（第7日）互いに直線的な攻撃を応酬しあうみごとな試合だった。B級転落の瀬戸際に立たされた法政は、今季最高の出来で20分7—8からあっという間に7ゴール、優位を占めた。優勝（同率）の望みを残す日体も後半7分から反撃、6点差をはね返しいちどは逆転に成功した。しかし、GK柴田の立ち直りで、追加点を阻んだ法政は15分すぎから再びスパート、村田、阿部の活躍で、日体を振り切った。

中央×早稲田（第7日）早稲田は、勝てば中央と並びながらも2連勝を果たすわけだったがそれを意識しすぎたのか精彩がなくあっ気なく敗れてしまった。せりあいをみせたのは前半12分5—3あたりまで。あとは、余裕を示す中央が、出足のない早稲田守備網を突き破って着々と加点した。後半、早稲田はどうにかプレーがまとまりはじめたが25分13—17がせい一杯。

4強の実力は紙一重有利と見えた日体、早稲田が僅かなリズムの狂いで2敗するかと思えば最終日の法政は横綱相撲。秋季の対決が今から楽しみである。

九州は九州産大辛勝

【速報】第12回全九州学生選手権は5月18、19の両日福岡・東海大体育館に16校が集まりトーナメントで行われた。

その結果、九州産大が決勝で熊本商科大を12—11で破り3連勝を遂げた。（詳報次号）

【日大】	得		【明治】	得
上野	0	GK	高木	0
高林	0	GK		
小宮	2	FP	指宿	5
金子	7	FP	山岡	5
潮田	0	FP	山根	2
阿部	0	FP	石井	3
大隅	0	FP	江幡	3
菊地	0	FP	松本	0
西子	1	FP	加納	2
大塚	2	FP	岡部	0
桜井	0	FP		
新井田	0	FP		
12（4）		7MT	20（1）	

早稲田 15（7－5, 8－6）11 法政

【法政】	得		【早大】	得
森田	0	GK	山田章	0
柴田	0	GK	坂本	0
矢島	0	FP	川畑	3
荒井	0	FP	山田克	1
大西	2	FP	脇若	5
村田	6	FP	山高	1
上滝	0	FP	岡本	0
青山	2	FP	明石	0
阿部	1	FP	鈴木	0
中野	0	FP	菊地	4
古関	0	FP	泉	1
辻	0	FP	甘利	0
11（3）		7MT	15（3）	

中央 25（13－10, 12－7）17 日体

【日体】	得		【中央】	得
奥川	0	GK	柴田	0
斎藤将	0	GK	田村	0
喜井	2	FP	蒲生	5
中山	8	FP	上村	0
橋本	4	FP	松本	8
菅野	3	FP	大熊	4
竹本	0	FP	藤本	1
斎藤幸	0	FP	佐野	0
坂本	0	FP	松下	0
大房	0	FP	戸田	3
庄司	0	FP	関	0
後川	0	FP	西窪	4
17（5）		7MT	25（5）	

明治 18（8－5, 10－7）12 慶応

日大 18（10－7, 8－6）13 東京学芸大

法政 21（7－8, 14－10）18 日体

【日体】	得		【法政】	得
奥川	0	GK	柴田	0
斎藤将	0	GK	森田	0
喜井	4	FP	矢島	1
橋本	2	FP	上滝	5
中山	5	FP	村田	6
竹本	3	FP	青山	4
菅野	1	FP	阿部	5
斎藤幸	2	FP	大西	0
坂本	0	FP	古関	0
大房	0	FP	辻	0
庄司	0	FP	橋本	0
後川	0	FP	中野	0
18（1）		7MT	21（2）	

中央 21（8－10, 13－6）16 早稲田

【早大】	得		【中央】	得
山田章	0	GK	柴田	0
阪本	0	GK	田村	0
脇若	6	FP	松本	6
菊池	4	FP	佐野	1
川畑	2	FP	大熊	4
山田克	1	FP	蒲生	2
山高	2	FP	藤本	2
岡本	0	FP	戸田	3
明石	0	FP	上村	1
鈴木	1	FP	西窪	2
泉	0	FP	関	0
甘利	0	FP	松下	0
16（3）		7MT	21（5）	

優勝をかけた中央・日体大戦はすべてのプレーが気迫のぶつかりあい（撮影・山田真市）

優秀選手

▽GK 柴田正章（法政）②

▽FP 松本義樹（中央）初
蒲生晴明（中央）②
脇若正二（早大）③
橋本義人（日体）初
村田幸男（法政）③
山岡稔和（明治）初

・○内は受賞回数

芝浦工大が全勝優勝 駒沢は3位に食いこむ

▽2部

千葉工大 15（4－6, 6－4）10 明星

東京教大 18（11－5, 7－4）9 東海

芝浦工大 18（9－9, 9－4）13 駒沢

関東学院 10（7－4, 3－5）9 千葉工大

国士館 16（11－5, 5－9）14 明星

芝浦工大 18（10－8, 8－8）16 東海

駒沢 14（9－5, 5－5）10 東京教大

東京教大 15（6－6, 9－8）14 国士館

明星 14（11－4, 3－8）12 駒沢

芝浦工大 28（15－1, 13－2）3 千葉工大

関東学院 18（9－10, 9－6）16 東海

芝浦工大 27（12－4, 15－8）12 国士館

駒沢 18（9－8, 9－9）17 関東学院

東京教大 16（9－2, 7－6）8 千葉工大

明星 25（14－5, 11－6）11 東海

国士館 21（9－8, 12－5）13 駒沢

千葉工大 19（10－8, 9－9）17 東海

東京教大 15（11－8, 4－5）13 明星

芝浦工大 29（18－2, 11－1）3 関東学院

東京教大 14（7－6, 7－5）11 関東学院

東海 17（5－7, 12－8）15 国士館

関東学院 23（13－10, 10－9）19 国士館

駒沢 29（15－7, 14－7）14 東海

駒・海 29（6－9, 14－4）13 千葉工大

芝浦工大 記録未詳 明星

国士館 21（8－7, 13－8）15 千葉工大

明星 23（13－8, 10－3）11 関東学院

芝浦工大 16（12－3, 7－6）9 東京教大

【教大】	得		【芝工】	得
上原	0	G.K	吉田	0
嶋田	1	FP	古川	2
藪野	3	FP	押切	0
中村	0	FP	斎田	4
川原	0	FP	新井田	1
竹内	1	FP	安中	0
佐藤	0	FP	柳沢	7
浜田	3	FP	柳原	2
西川	0	FP	村田	0
小西	1	FP	舛屋	0
9（0）		7MT	16（1）	

（2部の順位は20頁）

〃〃〃〃〃〃 多くの観客を動員

□……今シーズンは1・2部、女子の日程7日間のうちウィークデーが1日だけ、あとは祝・休日、土、日曜とあって延人数では久々に一万人近い観客が集まり、盛況だった。

屋外時代は平日開催がほとんどなく、定着したファンも居たのだが、インドアへ移してからは、他行事との重なりあいで、休日ばかりをおさえることができず、観客動員に響いていた。

一方、屋外3面を使う3部以下は、新たに6校の加盟で1日17試合という日もあり、審判員など運営面で再点検しなければならぬ課題も生じている。

5部に15校が参加

関東（3、4、5部）

新たに和光、武蔵、日本工業大、群馬大、亜細亜、横浜市大が加盟（北里は休部）したため5部は15校となり、1部からの総チーム数は47校という大世帯。

4月27日から5月23日までの7日間東京・駒沢第一球技場で3、4部は8校のリーグ戦、5部は15校を2組に分けそれぞれリーグ戦のあと、各組同位校が対戦して順位を決める方法が採られた。

その結果、3部は青山学院、4部は茨城大、5部は神奈川大がそれぞれ初優勝した。

青山学院順天堂破り優勝

▽3部

防衛 26―16 横浜商大
成蹊 23―10 都立大
立教 8(分)8 順天堂
青山学院 18―15 東京工大
順天堂 26―10 防衛
成蹊 24―11 横浜商大
青山学院 18―10 都立大
東京工大 14―9 立教
防衛 10(分)10 東京工大
順天堂 13―12 成蹊
立教 18―9 都立大
青山学院 16―9 横浜商大
防衛 20―7 都立大
東京工大 17―15 成蹊
立教 20―9 横浜商大
東京工大 16―9 横浜商大
順天堂 24―9 都立大
青山学院 21―10 防衛
成蹊 17―13 立教
順天堂 12―10 東京工大
横浜商大 16―12 都立大
立教 12―10 青山学院
順天堂 31―10 横浜商大
東京工大 18―10 都立大
青山学院 15―11 成蹊
防衛 21―6 立教
成蹊 18―7 防衛
青山学院 19―16、順天堂

【順位】①青山学院6勝1敗②順天堂5勝1分1敗③東京工大4勝1分2敗④成蹊4勝3敗⑤防衛・立教3勝1分3敗⑦横浜商大1勝6敗⑧都立大7敗

茨城大、激戦を抜ける

▽4部

武蔵工大 18―12 東大
千葉大 21―10 一橋
茨城大 12―9 専修
千葉商大 25―15 上智
東大 18―8 上智
武蔵工大 14―10 専修
茨城大 19―7 一橋
千葉商大 27―16 千葉大
専修 15―4 上智
武蔵工大 9(分)9 一橋
千葉商大 19―17 茨城大
東大 20―10 千葉大
東大 25―9 一橋
千葉大 19―7 武蔵工大
専修 13―12 千葉商大
茨城大 15―11 上智
専修 30―9 一橋
上智 15―12 武蔵工大
東大 20―17 千葉商大
茨城大 12―11 千葉大
上智 16―9 千葉大
専修 18―7 東大
茨城大 21―13 武蔵工大
千葉商大 20―15 一橋
千葉商大 18―17 武蔵工大
上智 18―12 一橋
専修 12―10 千葉大
茨城大 19―12 東大

【順位】①茨城大6勝1敗④東大4勝3敗⑤上智3勝4敗⑥武蔵工大2勝1分4敗⑦千葉大2勝5敗⑧一橋1分6敗

（注）2位は5勝2敗同士の専修―千葉商大が5月28日に対戦し決定

神奈川大、全勝で首位

▽5部Aブロック

独協 16―9 和光
東京理科大 17―16 山梨大
東京経大 18―9 武蔵
東京農工大 25―16 山梨大
独協 17―7 武蔵
東京農工大 14―7 東京理科大
東京経大 21―13 山梨大
武蔵 17(分)17 和光
独協 9―8 東京農工大
山梨大 16―10 和光
東京理科大 13―5 武蔵
東京経大 15―4 和光
東京農工大 26―9 和光
独協 20―6 東京理科大
武蔵 32―20 山梨大
東京理科大 16―6 和光
東京農工大 17―15 東京経大
独協 21―8 山梨大
東京理科大 17―14 東京経大
東京農工大 16―10 武蔵
東京経大 16―6 独協

▽1位決定戦

東京農工大 16―14 独協

【順位】①東京農工大5勝1敗②独協5勝1敗③東京理科大4勝2敗④東京経大4勝2敗⑤武蔵工大1勝1分4敗⑥山梨大1勝5敗⑦和光1分5敗

▽同Bブロック

明治学院 30―16 亜細亜
東京写真大 14―13 横浜市大
神奈川大 不戦勝 群馬大
日本工業大 21―11 東邦
神奈川大 22―12 亜細亜
日本工業大 18―16 東京写真大
東邦 14―5 横浜市大
明治学院 38―15 群馬大
東京写真大 17―10 亜細亜
神奈川大 11―8 日本工業大
明治学院 33―12 横浜市大
亜細亜 16―8 東邦
日本工業大 26―16 群馬大
神奈川大 20―6 横浜市大
東京写真大 34―16 群馬大
明治学院 26―20 日本工業大
群馬大 17―15 東邦
神奈川大 22―13 東京写真大
亜細亜 22―14 横浜市大
明治学院 28―11 東邦
神奈川大 不戦勝 東邦
日本工業大 16―15 横浜市大
亜細亜 不戦勝 群馬大
明治学院 21―20 東京写真大
日本工業大 14―9 亜細亜
東京写真大 不戦勝 東邦
横浜市大 19―16 群馬大
神奈川大 19―14 明治学院

【順位】①神奈川大7戦全勝②明治学院6勝1敗③日本工業大5勝2敗④東京写真大4勝3敗⑤亜細亜3勝4敗⑥横浜市立大・東邦・群馬大1勝6敗

▽13・14位決定戦

和光 棄権 横浜市大

▽同11・12位決定戦＝山梨、東邦とも不出場で試合不成立。

▽同9・10位決定戦

亜細亜 19―18 武蔵

▽同7・8位決定戦

東京写真大 19―15 東京理科大

▽同5・6位決定戦

日本工業大 22―16 東京経大

▽同3・4位決定戦

独協 22―20 明治学院

▽同首位決定戦

神奈川大 13―9 東京農工大

【最終順位】①神奈川大②東京農工大③独協④明治学院⑤日本工業大⑥東京経大⑦東京写真大⑧東京理科大⑨亜細亜⑩武蔵⑪山梨・東邦⑬和光⑭横浜市大⑮群馬大

日体、東女優勝分けあう

関東（女子）

◇4月27日～5月18日◇東京駒沢体育館◇参加　5校

昨秋、優勝を分けあった日体、東女体、東京学芸大のうち、学芸大が東教大戦でつまづき、自信をもつ日体大戦も、前半こそせりあったが、後半守りの乱れで敗退、優勝争いから脱落した。

日体、東女体は順調に勝ちすすみ、最終戦に優勝をかけた。

試合は、伯仲の両校対決にふさわしく、互角の展開だったが、前半終了まぎわから東女体がアヘッド。

後半すぐ日体は2点を返し、ふり出しに戻したが、東女体も間をあけず再び先行、優勢をつづけたリードされた日体は残り10分を切ってからプレス気味のディフェンスを採った策があたり、一気に3ゴールして逆転、そのまま逃げこむかとみえた。

しかし、東女体は、あと20秒という土たん場で、篠倉の左サイドからのシュートが鮮やかに決まり辛くも引き分け、規定により両校優勝となった。単独優勝を手中にしかけた日体にとっては悔いの残る失点であろう。

東女体は3シーズン連続、日体は2シーズン連続28度目、同率優勝は23年春、48年秋についで3度目のこと。

優秀選手
▽GK鍋田美佐子（東女体）初
▽FP松本みどり（日　体）②
　坂本　陽子（日　体）初
　藤山　聖子（日　体）初
　西田　恵子（東女体）③
　橘　　香澄（東女体）③
　山田美代子（東学大）②
・〇内は受賞回数

この両校と、他の3校はやや水があいてしまったが、それなりの混戦で三つ巴。このため今季は1位2校、3位3校という珍現象になった。昨秋、大活躍した学芸大は主力はほとんど変っていなかったが教大戦を落として調子をくるわしてしまった感じだ。

得点王は19ゴールをあげた山田美代子選手（東京学芸大2年、栃木女高出）で、2シーズン連続の受賞である。

学芸大、1勝に終わる
下位3校も同率で並ぶ

東女体大　17（8－3、9－3）6　東京教大
日　　体　19（6－4、13－1）5　日女体大
東京学芸大　19（8－3、11－2）5　日女体大
日　　体　12（5－4、7－1）5　東京教大
東女体大　17（7－2、10－2）4　日女体大
東京教大　8（5－1、3－5）6　東京学芸大
日　　体　20（8－7、12－5）12　東京学芸大
日女体大　10（7－3、3－3）6　東京教大
東女体大　13（10－2、3－4）6　東京学芸大
東女体大　8（4－2、4－6）8　日　体
引き分け

得	【教大】		【日女】	得
0	坂梨	GK	田草川	0
2	名賀	FP	高田	5
2	白鳥		前島	1
2	土屋		渡辺	0
0	中島		炭谷	1
0	神宮		高野	3
0	西山		青木	0
0	吉本		竹内	0
0	三井		塚田	0
1	坂本		榎本	0
0	清水		川野	0
7	（2）	7MT	（10）	10

得	【学芸】		【東女】	得
0	高橋	GK	鍋田	0
0	樋口		梶原	0
2	山田	FP	西田	4
2	伊藤		野口	1
0	永沢		橘	3
1	星野		赤岸	1
0	斎藤順		篠倉	0
0	安藤		山南	2
0	寺井		松岡	0
0	斎藤昭		岩永	0
0	前田		中田	0
1	奈倉		高橋	2
6	（0）	7MT	（1）	13

【順位】①日体・東女体大3勝1敗③東京学芸大、東京教大、日女体大1勝3敗

アシスト記録の試み

〇……以前から関係者の間で話題となっているアシスト（得点補助者）の記録を、関東学生春季リーグの女子優勝をかけた日体×東女体大戦で試みてみた。

この試合を選んだ理由は、内容的に高いものが期待されたことと男子のプレーではとうていマークしきれないだろう、という2点である。

〇……とりあえず、アシストをノートする基準は、ゴールを決めたシューターに直接パスを送った者（FTを除く）とした。

アイスホッケーやサッカーなどは、シューターから二つほどプレーを逆のぼり、「ダブル・アシスト」（二人の得点補助者）を認めているが、今回はその方法を見送った。

〇……試合ははたして熱戦となったが、最初の2点（東女、日体各1）はリバウンドを拾っての単独ゴールや7MTで、いわゆるノー・アシスト。

GKからのワンパス速攻などを期待したがなかなか出ず、ようやく6分、日体坂本の左45度のシュートが成りこの時、中央右寄りから配球した藤山にアシスト1。

〇……全16得点のうち10得点がアシストを伴うプレーであった。

特に後半6分日体が同点に追いついた松本のポストプレーは、坂本の好パスで活きたものだし、劇的ともいえる東女の8点目は、残り20秒、左45度の西田が左サイドでノーマークの篠倉へ送ったパスによって生まれたもの。この場面でゴールを決めた篠倉もさることながら、西田の判断力は、アシストをノートしていなければ、記録に残ることのない美技なのである。

〇……アシストのチェックは、ハンドボールの新しい魅力発見にもなりそうだが、心配したとおり、しばしばパッサーを見失った。一人ではとても、つけきれない。

今回の方法や基準に改良を加えながら、今後も機を見てトライしたいが、読者からの〝実験例〟も是非お寄せ願いたい。

アシスト（補）を加えたこの試合のテーブルは次のとおり。

（杉山）

補	得	【日体】		【東女】	得	補
0	0	鈴木	GK	鍋田	0	0
0	0	長谷川		梶原	0	0
2	3	松本	FP	西田	1	1
0	0	坂上		赤岸	1	1
1	2	坂本		篠倉	1	0
0	0	菅井		高橋	1	0
0	0	小田		橘	2	0
0	0	木元		野口	2	2
0	2	寺尾		松岡	0	0
3	1	藤山		岩永	0	0
0	0	岩本		中田	0	0
0	0	門田		山南	0	0
6	8	（1）	7MT	（1）	8	4

「アマチュアリズム」新しい時代へ

4月30日付で各報道機関がIOC（国際オリンピック委員会）憲章第26条の改正案を大々的に報じたことや、4月に来日したスタジオン・IFコペンハーゲン（デンマーク）クラブが広告入りのユニホームを着ていたことなどで、日本ハンドボール界の「アマチュアリズム」に対する意識と関心も再び三たび高まっている。この問題の周辺を探ってみよう。（編集部）

強まる企業との関係

近年、アマチュアスポーツ界のかかえる最も大きな問題としてスポーツ用品（メーカー）や、企業の選手に対する圧力がある。

〝圧力〟という言葉は、必ずしも適当ではないが、一流選手になればなるほど広告価値、宣伝価値があがり、メーカー、企業の「的」になる傾向が強まっている。

逆に、チーム側、選手側もじゅう分そのことを承知で、好条件のスポンサー探しさえするようになった。

4月29日、IOCのキラニン会長（アイルランド）が、ロンドンで発表した第26条改正案では、この点について、これまでより緩やかな表現を示している。（注＝IOC憲章第26条は、オリンピックに参加するための選手資格を定めた条項）

即ち、選手が広告の媒体になることを全面禁止せず、例えば、選手の名前や写真などを広告に利用させることも、選手個人の利益が目的ではなく、公的な競技団体、スポーツ機関が行う場合には認める、というのだ。時の流れを感ぜずにはいられない。

商品宣伝、日本では禁止

この改正案発表よりまえ、昨冬12月17日付で、IHF（国際ハンドボール連盟）は、各国ハンドボール協会に対し次のような通達を出している。

「ナショナルチームに対しては、一九七四年十月にIOC規約の新26条が批準されるまではスポーツ着用品につける一切の宣伝を禁止する」

つまり、ナショナルチーム以外のチームは、そのユニホームなどでの宣伝を認める、ということでもあった。

だから、スタジオン・IFが、スポンサー名入りのユニホームを堂々とつけて遠征してきたことも違反ではなかったのである。

それならば日本チームも、ということになるのだが、そうは簡単に運ばない。

日本ハンドボール協会は、日本体育協会の一員として、そのアマチュア規程を守らなければならないのである。

即ち、

> 日本体育協会アマチュア規定第6条「本会加盟の競技団体は、競技会を開催するに当たって、他の団体を共催、後援あるいは協賛者として加えることができる。競技会を利用して行なう商業宣伝は、あらかじめ本会の承認を得なければならない。ただし、競技会のプログラム、ポスターを利用する場合は、この限りでない」
>
> 同第7条「本会加盟の競技団体は、競技者が直接使用する被服または用器具に、広告を記載したものを使用し、または、使用させることはできない。」
>
> 同第8条「本会加盟の競技団体が関係する競技会の賞は原則としてトロフィ、カップたてなどとする。副賞を授与するときは、競技会の品位を傷つけず、また宣伝に利用されないものに限る。」

実業団チームの場合、例え親会社、自社のものといえどもその商品名、製品名をユニホームなどにつけることは許されない。

学生やクラブが、ヨーロッパなみにスポンサーを見つけるなどもいぜん日本ではとんでもないことなのである。

なお、実業団が会社名をユニホームに示すのはチーム名と判断され違反とはならない。ただし、商品名をチーム名として登録することは認められない。

厳格な「日本ハンドボール」

ISF（各国際競技連盟）や、NOC（各国々内オリンピック委員会）の規則が、IOCより厳しい場合は、当然、それに従い、順守しなければならないのは筋である。

実は、国際スポーツ界にあってハンドボール（IHF）は、その厳しさにおいて五指に入り、また、日本体育協会の規定も厳格さでは定評のあるところ。

日本のハンドボール選手は「日本体育協会アマチュア規定」と、IHF規定に準拠した「日本ハンドボール協会アマチュア規定」（次頁参照）に包囲され、寸分スキないアマチュア選手になっている、といえる。

もちろん、規定が完備しているからといって問題が生じていないわけはない。

規定にはずれかけた企業チームも過去にあったし、スレスレを狙っての問合せもある。

また一部で改正を望まれている条項に「直接または間接に報酬を受けてハンドボールのコーチを行ったもの。以下、略」（日本ハンドボール協会アマチュア規定第7条の3）がある。

日体協規定でも、競技力向上のための技術面を担当するコーチ、トレーナー、あるいはチーム編成に当たっての役員等は、すぐれた技術能力が特段に要求される点を重視して、必ずしもアマチュア競技者であることを必要としない、としている。

プロコーチさえ要望されている時期に日本ハンドボール協会の規定は遅れているというわ声は最近若手指導者の間で高まっている。

IHFも規程改正か

ところで、IOCの今回の改正案が、今秋10月のIOC年次総会（ウィーン）で採択されれば、ヨーロッパのハンドボール界は、かなり様相を変えるのではないか、とみる人が多い。

ハンドボールは、ヨーロッパではサッカーにつぐ人気スポーツの一つだ。

IOCは、ISFやNOCが認めれば低いレベルでならばスポンサーつきの競技会（例えば二国間対抗、クラブ対抗）を行ってもよいとしているのでこうした大会が増えるだろうし、前述のように、協会とスポンサーという関係でスタープレイヤーが広告に現れるケースも出てくるだろう。

また、日本体協やIHFはIOC憲章にそって、そのアマチュア規程の手なおしをすることが予想され、「休業補償」「ポケットマネー」など金銭がらみの問題で日本ハンドボール協会も新たな局面に立たされそうだ。

荒川清美理事長を委員長とする「アマチュア審査委員会」はこの何年間というもの一回も招集されずにいるが、今後は「アマチュア観」の相異などから、これまでのように〃平穏無事〃とはいくまい

ついでながら記しておくと、国民体育大会で、参加チームのユニホームのマークは都道府県名を優先するようにとの指示は、アマチュア問題と云うよりも、大会の性格によるものである。（了）

日本ハンドボール協会アマチュア規程

第1条　この規程でアマチュアとは、純粋にスポーツの立場からハンドボール競技に関係しているものをいう。

第2条　日本ハンドボール協会並びに地方支部協会（以下「本会」という）の会員は、ハンドボールによって得た地位或いは資格を資本化して、下記の各号に掲げる行為をしてはならない。

①　商品または製造業者から報酬を受けて、その商品もしくは器具を使用すること。

②　商品または製造業者による商品もしくは器具の宣伝広告のために、自己もしくは自己の名をその利用に供すること。

③　本会の許可を得ないで、商店または製造業者の主催または後援する競技会等に出場すること。

④　自己の執筆しない新聞または雑誌の掲載文に、氏名を貸して謝礼として金品の授与を受けること。

⑤、本会の許可を得ないで、演劇および劇映画等に出演すること

第3条　本会の会員が他の団体もしくは個人から依頼を受けて、ハンドボールを指導する場合は、その所属する団体の許可を受けなければならない。

第4条　本会の会員は、競技の参加又は、その準備のために欠勤し、そのため給料の支払が受けられなかった理由で、その補いのために金銭を受けたり、請求することはできない。

第5条　本会の会員が、競技または講習に参加した場合は、別に定めるアマチュア旅費規程（日本ハンドボール協会旅費規程）の範囲内において支給される旅費のほか、他のいかなる費用も受けることはできない。

第6条　この規程により会員に支給される費用は、直接会員に渡さずに、その会員の属する団体に支払うのを原則とする。

第7条　下記の各号の一に該当するものは、アマチュアの資格を失う。

①　報酬を受けるために、または何等かの物資上の利益のためにハンドボール競技に参加したもの

②　日本ハンドボール協会の許可を得ないでアマチュア以外のものと競技したもの。

③　直接または間接に報酬を受けてハンドボールのコーチを行ったもの。ただし、教職にあるものが、その学校の職務としてハンドボールを指導する場合をのぞく。

④　競技で獲得した賞品を売却入質、交換もしくは賃貸または報酬を受けて呈示したもの。

⑤　本会の所属する団体以外の団体が、競技による収入を目的とする競技会を開催した場合に、その競技会に直接または間接に参加したもの。ただし、競技による収入が本会の許可を得て、慈善的な目的に使用される場合はこの限りではない。

⑥　第5条規定により、旅費の支給を受けたものが、長期にわたり専業化した場合。

第8条　前条各号の規定に違反して、アマチュアの資格を失って非アマチュアの判定を受けたものが、再びアマチュアの資格を得ようとする場合は、下記の各号に掲げる条件をそなえたうえ、本会アマチュア資格審査委員会の承認を受けなければならない。

①　非アマチュアの判定を受けてから満2ケ年を経過している。

②　翻意の情が明らかで、再び非アマチュアの判定を受けるような行為をしないという誓約をする

第9条　この規定は、本会に加盟しているすべての団体の会員の全部に適用され、違反者は除名。

〈附則〉①　本規程は昭和32年11月1日より施行する。

②　アマチュア旅費規程は、原則として日本ハンドボール協会旅費規程に準拠する。

③　アマチュア資格審査委員会に関する規定は別に定める（注＝懲罰委員会規程第2条）

④　本規程でいう会員とは役員選手（登録者）、審判員など「日本ハンドボール協会関係者すべて」を指す。

☆★☆★☆★☆

海外トピックス

～男子ヨーロッパカップ決勝～

一宮昌平
（日体大コーチ）

グンメルスバッハが優勝

ヨーロッパ24ケ国のチャンピオンチームによって、昨秋9月から争われていた第14回ヨーロッパカップ・トーナメントは、4月21日ドルトムントのウエストハーレンで行われたVfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）×MAI・モスクワ（ソ連）の決勝戦で7ケ月にわたる熱戦の幕を閉じた。

ヨーロッパで絶大の人気を誇るグンメルスバッハと、前回優勝のモスクワの対決とあって会場は超満員、一万四千の大観衆が押しかけ王座奪還に燃えるグンメルスバッハが延長戦の末、19対17で勝ち3年ぶり4度目の優勝を飾ってファンの歓呼に応えた。西ドイツ代表の優勝は3年ぶり6度目。

グンメルスバッハ（西独）	19		17	MAI・モスクワ（ソ連）
		9—8		
		7—8		
		2—0		
		1—1		

得	【グンメルスバッハ】		【モスクワ】	得
0	カーター	GK	シットシューデ	0
0	ブローナー	GK	ガルブコワ	0
1	H・ブラント	FP	パナフ	0
4	ヴェステベ	FP	マキシモフ	9
9	シュミット	FP	リトフ	0
1	コスメール	FP	クジン	4
4	ディクアーム	FP	クラワシュフ	1
0	J・ブラント	FP	クリモフ	1
0	フェルドホフ	FP	コスチェイフ	0
0	レットゲン	FP	マショリン	2
0	ミュラーグヘック	FP	オガネゾフ	0
0	ヘンゼラー	FP	ラプーニフ	0
19	（3）	7MT	（4）	17

モスクワ、驚異的な粘り

試合は、スタートから白熱、大観衆を興奮のるつぼにたたきこんだ。

前半三たびタイスコアの間に、グンメルスバッハは7—5、8—6と二度2点のリードを奪ったがモスクワも、エース・マキシモフの活躍で追いこみ、伯仲した。

前半終了直前、グンメルスバッハは貴重な勝ちこし点をあげ、この1点が、その後の戦局を大きく作用するものとみえた。

はたして、後半グンメルスバッハは11—8、12—9と二度にわたり3点先行の場面があり、地元ファンに、その勝利を確信させた。

しかし、モスクワも、さすがにチャンピオン。ひるむことなく、じわじわと反撃、13—15の劣勢から14—15、14—16、15—16、16—16とタイスコアにした。

この追いあげには、さすがの西ドイツファンも驚いたようだ。

光るカーターの好守

史上2度目の延長、ここでも先手はヴェステベによりグンメルスバッハがとった。モスクワもマキシモフにボールを集め同点を狙ったが、グンメルスバッハはGKカーターの堅守で防ぎ、攻めては、マン・ツウマンでつかれたシュミットが、左45度から強引に射ちこんで18—16、これで大勢は決まった。

モスクワは、このあとマショリンが1点を返したが、グンメルスバッハもシュミットが止めを刺しさしもの激闘も幕を閉じた。

西ドイツの「週刊ハンドボール」誌は、もし、モスクワにもっとシュート力があれば、試合は延長にならず逆転勝ちも可能であったろうと評しているが、それだけに終盤から延長へ入ってからみせたグンメルスバッハGKカーターの活躍は鮮やかと云え、勝利の最大殊勲者となった。

グンメルスバッハのチタ監督（ルーマニア人）は「我々が幸運に恵まれたのに対し、モスクワはツキに見はなされたことが多かった」と語り、モスクワのエヴチェンコ監督は「グンメルスバッハの勝利を心から祝福する」と語ったあと「後半、我々は少くともあと3本の7MTを得られたハズだし、シュミットのオーバーステップに対し、正確な判定がくだされなかった」と審判（ジンガー、ジーバート＝東ドイツ）への不満を述べた。

ともあれ、両雄によって演じられた70分間の大ドラマは、男子ハンドボール史上、永く記憶されるべき最高の内容を盛りこんで終わり、ファンの興奮も、また空前のものであった。

西ドイツ選手権も手に

ヨーロッパカップを手にしたグンメルスバッハは、休む間もなく4月28日、ドルトムントに再び一万人をこす大観衆を集めて、TUS・ベエリングホーヘンと今年の西ドイツ選手権を争い、19—14（前半10—7）で快勝、2年連続5度目の優勝を飾った。

なお、西ドイツ以外の各国でも次々とチャンピオンが決まっている。フランスではパリUSがステラを破り、デンマークはKFUMアーハスが優勝（スタジオン・IFは4位）、スウェーデンではヨテボルグ・スポーツが栄冠を獲得した。

韓国球界の近況

韓国球界は、春と秋が2大シーズン。特に春の大会は、日韓戦の代表争いに影響するとあってひときわ熱が入るようだ。

4月12日からソウルで行われた全国春季大学連盟戦の決勝リーグは激戦の末、成均館が優勝。女子は梨花女大と清州教大の2校が参加しただけだったが、梨花女大が攻守に一日の長を示して2勝した。両大学は6月、日本に遠征してくる。

▽男子決勝リーグ

成均館大 15—10 円光大

慶熙大 13—8 円光大

成均館大 15（8—7、7—7）14 慶熙大

▽女子（2回戦制）

梨花女大 11—9 清州教大

梨花女大 9—5 清州教大

3月末、ソウルで行われた第4回会長旗争奪全国中学高校大会は、男女各部門あわせて
チームが参加、注目の高校男子は決勝リーグで東亜（釜山）が、ソウルの東星を12—8、崇実を
で破って優勝、同女子は鳳永女商×聖貞女とソウル同士の決勝となり鳳永女商が6—2で勝ち優勝を決めた。【田中滋章・愛知協会常任理事】

中国高校選手権

広島一女商の宿願成る

男子は岩国工

第25回中国高校選手権は、5月12、13の両日島根県・松江農林高球技場に、中国5県の予選を勝ち抜いた男女各16校が参加して行われた。

男子は、今年も山口、広島勢が安定した強味を示し、はげしい優勝争いを演じた。決勝は攻撃力に自信をもつ岩国工と、試合上手な下関中央工の山口同士の顔合せとなり、互角の戦況から、わずかに岩国工が押し勝ち3年ぶり5度目の優勝を飾った。

女子は、力倆差がはっきりあらわれ、広島一女商、山陽女（ともに広島）、徳山（山口）の名門校が危気なく勝ちあがり、わずかに防府商(山口)の進出が目立った程度。決勝は2年つづけて広島一女商×徳山の争いとなったが、広島が終盤、逆転に成功、感激の初優勝を遂げた。

男子で山口代表の優勝は2年連続18度目、女子で広島代表の優勝は3年ぶり9度目。

▽男子1回戦
下関中工(山)22―4呉三津田(広)
浜田水産(島)19―16天　城(岡)
修　道(広)13―10倉敷工(岡)
松江南(島)15(延)11倉吉工(島)
呉　工(広)23―11松江工(島)
岩国工(山)19―1倉吉東(島)
児　島(岡)22―7境港工(島)
岩　国(山)21―10松江農林(島)

▽同準々決勝
下関中央工 23（11―5 12―7）12 浜田水産
修　道 18（9―4 9―1）5 松江南
岩国工 18（10―3 8―3）6 呉　工
岩　国 11（8―3 3―3）6 児　島

▽同準決勝
下関中央工 12（9―3 3―1）4 修　道
岩国工 12（6―7 6―3）10 岩　国

▽同決勝
岩国工 9（7―5 2―2）7 下関中央工

▽女子1回戦
徳　山(山)13―1操　山(岡)
進徳女(広)4―0松江市女(島)
浜田商(島)7―2津山南(岡)
防府商(山)12―3米子商(島)
落　合(岡)7―6松江農林(島)
山陽女(広)12―0山口中央(山)
下関西(山)8―6金　川(岡)
広島一女商(広)23―1倉吉西(島)

▽同準々決勝
徳　山 17（10―1 7―1）2 進徳女
防府商 14（4―5 10―1）6 浜田商
山陽女 21（7―0 14―0）0 落　合
広島一女商 16（3―0 13―2）2 下関西

▽同準決勝
徳　山 16（5―1 11―2）3 防府商
広島一女商 7（4―3 3―1）4 山陽女

▽同決勝
広島一女商 8（5―3 3―4）7 徳　山

各地の記録

男子で拓大一が抬頭

▼東京都高校春季大会（5月）

▽男子決勝リーグ
中大附属 22―7 明　星
明　星 15―9 小　岩
中大附属 10―9 拓大一
拓大一 8―6 明　星
中大附属 23―6 小　岩
拓大一 11―6 小　岩
【順位】①中大附属②拓大一③明星④小岩

▽女子決勝リーグ
五　商 6―1 二　商
小　平 5(分)5 五　商
小　平 9―4 二　商
桜水商 8―4 五　商
二　商 7―5 桜水商
桜水商 4(分)4 小　平
【順位】①小平②桜水商③五商④二商

浦和市立、男女とも準優勝

▼埼玉県学徒総合体育大会ハンドボール競技（5月、行田女高）

▽男子準々決勝
菖　蒲 21―10 教大付坂戸
浦和南 15―10 聖　望
川口工 21―6 寄　居
浦和市立 14―3 朝　霞

▽同準決勝
浦和南 12―10 菖　蒲
浦和市立 16―14 川口工

▽同3位決定戦
菖　蒲 14(延)13 川口工

▽同決勝
浦和南 11（8―3 3―5）8 浦和市立

▽女子準々決勝
浦和市立 10―3 川口女
深谷女 20―1 浦和南
朝　霞 8―6 聖　望
行田女 7―1 熊谷商

▽同準決勝
浦和市立 10―7 朝　霞
深谷女 11―2 行田女

▽同3位決定戦
行田女 9―3 朝　霞

▽同決勝
深谷女 11（6―0 5―2）2 浦和市立

男子は久留米工勝つ

▼福岡県高校トーナメント（5月久留米工高）

▽男子準々決勝
若　松 18―9 香　椎
筑紫中央 14(延)13 明　善
久留米工 18―7 九州産
小倉西 14―13 福岡工

▽同準決勝
若　松 15―6 筑紫中央
久留米工 14―11 小倉西

▽同決勝
久留米工 14（9―3 5―7）10 若　松

▽女子準々決勝
福岡女 9―5 明　善
古　賀 15―3 嘉穂農
筑紫女 9―2 筑紫中央
福岡女商 6―3 東海五

▽同準決勝
古　賀 6―4 福岡女
筑紫女 5―4 福岡女商

▽同決勝
古　賀 7（4―2 3―3）5 筑紫女

三重教員順当勝ち

▼三重県一般春季大会（4月・四日市緑地体育館）＝男子のみ

▽準々決勝
三菱油化 棄権 本田技研
日本合成ゴム 15―12 自衛隊久居
三重教員 32―2 明野航空学校
本田技研B 21―7 鵜ノ森ク

▽準決勝
三重教員 棄権 本田技研B
三菱油化 棄権 日本合成ゴム

▽決勝
三重教員 20（9―7 11―5）12 三菱油化

明徳商、精華に逆転勝ち

▼第28回京都高校春季大会（4月平安高）

▽男子準々決勝
洛星 14―5 鴨沂
嵯峨野 17―9 大谷
城南 17―15 塔南
伏見工 17―6 洛北

▽同準決勝
嵯峨野 8―5 洛星
伏見工 11―8 城南

▽同決勝
伏見工 9（4―0／5―2）2 嵯峨野

▽女子準々決勝
明徳商 10―1 光華
嵯峨野 8―4 塔南
洛東 9―8 京都女
精華 6―4 乙訓

▽同準決勝
明徳商 8―6 嵯峨野
精華 4―0 洛東

▽同決勝
明徳商 8（2―3／6―1）4 精華

サンクラブが快勝

▼東京都クラブトーナメント（5月・都立板橋高）

▽男子準々決勝
神代ク 15―7 若木会
ジューキ・ク 19―7 YMCA
SDP 35―22 秋川クA
サン・ク 23―8 秋川クB

▽同準決勝
ジューキ・ク 12―11 神代ク
サン・ク 18―11 SCP

▽同決勝
サン・ク 17（9―6／8―5）11 ジューキク

女子は、東花ク、美和クがエントリーしたが美和クは棄権。

富球会、氷見クを降す

▼富山県春季選手権（5月・小杉高）

▽一般男子1回戦（1試合）
八尾ク 22―11 富山教員

▽同準決勝
氷見ク 22―10 八尾ク
富球会 14―9 富山大

▽同決勝
富球会 14（7―7／7―4）11 氷見ク

▽同女子決勝
比美ク 11（6―1／5―3）4 高岡女ク

▽高校男子準々決勝
高岡商 14―10 氷見
伏木 19―11 滑川
高岡日大 21―7 富山工
富山工専 6―5 小杉

▽同準決勝
高岡商 16―9 伏木
高岡日大 19―8 富山工専

▽同決勝
高岡商 13（5―6／5―4……2―1／1―1）12 高岡日大

▽同女子1回戦（3試合）
高岡女 4―1 富山女
清光 11―4 高岡
有磯 15―5 富山北

▽同準決勝
小杉 7―5 有磯
高岡女 11―7 清光

▽同決勝
小杉 8（3―3／3―3……1―1／1―0）7 高岡女

粉河高、後半の反撃実る

▼和歌山県春季総合選手権（5月県和歌山商）

▽男子準々決勝
丸善石油 21―12 桐蔭高A
和歌山教員 16（延）15 和商ク
那賀高 22―8 県和歌山商高
丸善スワロー 22―13 新宮ク

▽同準決勝
丸善石油 21―12 和歌山教員
丸善スワロー 16―14 那賀高

▽同決勝
丸善石油 17（8―3／9―4）7 丸善スワロー

▽女子1回戦（1試合）
県和歌山商高 17―3 吉備高

▽同準決勝
粉河高 6―3 御坊商工高
県和歌山商高 13―4 貴和高

▽同決勝
粉河高 6（0―4／6―1）5 県和歌山商高

男子は学生勢が貫録

▼第18回宮城県総合選手権（4月宮二女）

▽男子準々決勝
仙台大 15―9 塩釜高
育英高 16―12 仙台高
東北電子工高 20―7 祇園寺高
東北学院大 19―2 祇園寺OB

▽同準決勝
仙台大 12―11 育英高
東北学院大 14―5 東北電子工高

▽同決勝
東北学院大 17（6―4／11―4）8 仙台大

▽女子準々決勝（いずれも高校）
宮三女 6―5 塩釜女
涌谷 9―3 宮二女
仙台女商 7―5 宮一女
古川商 12―2 祇園寺

▽同準決勝
古川商 9―4 仙台女商
宮三女 不戦勝 涌谷

▽同決勝
古川商 7（4―2／3―3）5 宮三女

大同、あっさり13連勝

▼第30回愛知県実業団リーグ（兼第6回林会長杯争奪リーグ）、（4月・名古屋体育館）

▽男子1部
大同星崎 24―10 トヨタ自工
大同製鋼 19―10 三友工業
三友工業 18―13 トヨタ自工
トヨタ車体 23―10 大同星崎
トヨタ車体 21―12 三友工業
新日鉄名古屋 16―15 三友工業
大同製鋼 19―10 トヨタ自工
トヨタ車体 23―10 トヨタ自工
新日鉄名古屋 22―11 トヨタ自工
大同星崎 18―12 三友工業
トヨタ車体 20―13 新日鉄名古屋
大同製鋼 28―16 大同星崎
大同製鋼 28―17 新日鉄名古屋
大同星崎 20―13 新日鉄名古屋
大同製鋼 21―14 トヨタ車体

【順位】①大同製鋼5戦全勝（13連勝、通算15度目の優勝。林杯には6連勝）②トヨタ車体4勝1敗③大同星崎3勝2敗④新日鉄名古屋⑤三友工業⑥トヨタ自工

▽同2部順位決定戦・7～8位
ブラザー工業 22―9 豊田織機

▽同・5～6位
アイシン精機 24―16 中部電力

▽同・3～4位
パイロットインキ 20―16 三菱重工

▽同・1～2位
日本碍子 17―11 豊田工機

▽同1・2部入れ替え戦
日本碍子（2部） 18―8 トヨタ自工（1部）

▽女子リーグ（2回戦制）
ブラザー工業 17―3 豊田工機
伏原紡織 8―7 豊田工機
ブラザー工業 27―2 伏原紡織
伏原紡織 19―4 豊田工機
ブラザー工業 22―1 豊田工機
ブラザー工業 21―1 伏原紡織

【順位】①ブラザー工業全勝②伏原紡織2勝2敗③豊田工機4敗

4部25クラブが熱戦

▼第17回愛知クラブリーグ（4月名古屋市体育館）＝男子のみ

▽1部

愛知教員24―9一宮工ク
東海ク16―9桜丘会
愛知教員18―12桜丘会
東海ク23―10上野ク
愛知教員17―9東海ク
桜丘会22―12上野ク
名城ク13―9一宮工ク
愛知教員15―7上野ク
桜丘会26―4一宮工ク
名城ク14―11愛知教員
東海ク13―12一宮工ク
一宮工ク13―12上野ク
名城ク16―10東海ク
名城ク15―9上野ク
桜丘会14―10名城ク

【順位】①愛知教員4勝1敗（得失点差34）②名城ク4勝1敗（15）③桜丘会・東海ク⑤一宮工ク⑥上野ク＝愛知教員は初優勝

【2部順位】①港ク・東山ク・一宮ク④愛工ク・松蔭ク⑥名大ク

【3部順位】①南山ク②佐々木ク③菊井ク・愛商ク⑤桜丘会B⑥蒼窮ク

【4部順位】①愛教ク②佐織ク③桜田ク④若宮ク・東杏会⑥しなのク⑦向陽ク

第一女商、山陽女が大激戦

▼広島県高校トーナメント（4月修道高）

▽男子準々決勝
修道29―2呉商
三津田9―8広
山陽15―13宮原

▽同準決勝
呉工18―4三原
呉工15―13山陽
修道8―4三津田

▽同3位決定戦
三津田9―8山陽

▽同決勝
修道11（6―3、5―4）7呉工

▽女子準決勝
第一女商21―2呉商
山陽女10―0進徳

▽同3位決定戦
進徳11―5呉商

▽同決勝
第一女商9（2―2、4―4…0―1、1―0…0―1、2―0）8山陽女

小祿高ＯＧ、琉大に圧勝

▼第7回沖縄一般女子大会（5月浦添高）

▽1回戦（1試合）
小禄ＯＧ21―8沖国大

▽決勝
小禄ＯＧ30（15―4、15―2）6琉球大

男女とも添上が優勝

▼奈良県春季高校選手権（4月・生駒中）

▽男子準々決勝
奈良8―7生駒
郡山16―15一条
添上19―9東大寺
天理20―7奈良工

▽同準決勝
添上8―5天理
奈良16―13郡山

▽同3位決定戦
天理14―9郡山

▽同決勝
添上15（8―3、7―8）11奈良

▽女子1回戦（3試合）
郡山13―6十津川
生駒24―1榛原
添上18―4一条

▽同準決勝
桜井商8―6生駒
添上10―5郡山

▽同決勝
添上19（12―1、7―2）3桜井商

東京理事長に滝口三郎氏

新年度にあたって東京協会など各県から新役員名簿がつぎつぎと発表された。本誌あて連絡分次のとおり。

◇東京協会新役員
▽理事長　滝口三郎　▽常務理事　早坂勢三、福地賢介、中野偉夫、竹野奉昭、近藤金博、村田稔、島田房二、青木宏治

◇兵庫協会新役員
▽会長　常松喬（県立スポーツ会館長、日本協会参与）▽理事長　幸田末之▽副理事長　梅田幹夫、横野貴彦▽常任理事　新井節男、泉幸男、狩野幸介、栗山繁則、白井勇、正井三郎、西村興八

◇新潟協会新役員
▽会長　近藤禄郎（県教育委員長）
▽理事長　渡辺五郎兵衛▽常務理事　庭山政幸、阿部健、加藤正敏、山田馨、大矢三郎、若井静男、西倉弥芳、大谷文雄、柳康夫

◇山形協会新役員
▽理事長　会田恒雄▽常務理事矢作久茂、中川省吾、五島訓二、結城好夫、多勢洋、佐藤三生、奥山寿一

◇福島協会新役員
▽会長　宗形守敏（東北ムネカタ）
▽理事長　関川正道　▽常任理事　平川憲甫、田口侑義、加藤兵郎、村上俊一、高野尚之、村浦義勝、佐藤雄次、三瓶昌久

◇栃木協会新役員
▽理事長　高橋隆夫　▽副理事長　菅間一　▽常任理事　柿沼郁二、桑名照雄、清水清、住森憲治、阿部徳助、山下勝司、浜野信一、南部正喬、宮田清次郎

◇事務局の変更
▽高知協会　高知県高岡郡佐川町・佐川高校気付
▽兵庫協会　神戸市須磨区宝田町2丁目1 1・滝川高校気付（電＝073―782―一六二五）
▽山形協会　山形市城西町3丁目6の7・竹田女子高校気付（電＝〇二三六―32―〇三二一）

★……記録以外の本誌への投稿は必ずタテ書きでお願いします。

★編集後記

□……昭和35年6月に創刊号をだした本誌は、ちょうど今月号で15年の誌令を重ねたことになります。

季刊から隔月刊を経て「月刊・登録チーム購読制」の現在まで、読者の支持があればこその15年。改めて感謝いたします。

□……機関誌といいながら、時には協会批判も載る本誌にとまどいを感じる読者も居られるでしょうが、斯界は、これまで建設的な意見の集まる場所がなく、そのために、新しい流れが少かったのです。

その欠点を補うことも、一つの使命として本誌は刊行されています。編集部は原稿の整理役にすぎません。本誌の主役は読者の皆さんです。積極的な寄稿を、毎度のことながら期待しています。

□……荒川理事長が訪独スポーツ少年団団長に推せんされたニュースは、斯界が対外的にも一つの信頼を得るにたる団体、組織になった、といえるでしょう。嬉しい話です。

大役をうけて緊張気味の荒川理事長の表情に、その喜びを感じとることができたのが印象的でした。（S・S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一二〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十九年五月二十五日印刷 昭和四十九年六月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代代(467)三一二一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百五十円（年間購読料二千三百円）